

## 国は大切なもの

コ ソク ボム

1. 動機
2. インタビューとディスカッション
3. 結論
4. 終わり

### 動機

我々は 小学校の時代から 国家は 大事だし、大切なことだと教えられてきました。そして 国家の中要請について 異議を立てられる 人は あまり 少ない と思います。しかし 国家の 大切さを 直接 感じている人は いくらいるでしょうか。扉だけ開けば冷蔵庫のなかに 食べものがいつでもいっぱいある人には お腹が空くって単語としては知っているけれども直接感じることは難しい と思います。それで自分の国家という囲みの中で普通の人として 国家の大切さを感じることは難しいかもしれないと考えて見ます。自分の国を離れて外国で見る我が国は皆の国によって違っている考え、見方を持っていると思います。

今、私が外国、日本へ来て我が国を見たら、何が大切なものだったか。我が国にいた時はそんなこと考えた時もなく、友たちと話し合った時もなく、愛国心もそんなに多く持たなくて、ただ サッカーとかいろいろなスポーツ試合を見る時だけ国は大切なものだと思います。どうして国は大切なものか。誰でも真剣に考えたことはあまり少ない と思います。

今は初めに会う人から聞かれる言葉が「どこから来たんですか。」そのときたび 「韓国から」と答えるのでそんなに答えるうちになんとか国は大切なものだと体で感じてしまいました。それにどこでもいつでも私は韓国人だということを忘れたこともなかった。我が国にいった時と比べて国家、韓国についてはあまり気にしなかったが今の様子は自然に関心を昔よりもっと持ちになりました。

やっぱり自分の国を離れば愛国心ができるべきだと考えました。特に韓国人は程度が他の外国人より高いかもしれません。なぜなら、新聞、テレビを見れば一番近い国として韓国、一番危険な国として北朝鮮がよく見ることができます。そして韓国にいた時よりも日本でいるほうが 北朝鮮についてもっと詳しく聞くとときもありそうです。ですから我が国についてだんだん大切にするようになりました。それなら国についてどんなものが大切なものか。今外国、日本で生活している私には今回がよい機会だと思います。

そして、国として大切なものがいろいろあるけれども本当に必要なもの、今まで知っていましたが、気にしなかったもの、今度から話し合いながら書きた

いと思います。

## インタビュー

時間：2003年5月30日

参加者：ボム、ソルベイガ

ボムのテーマ：国は大切なもの

ソルベイガさんのテーマ：言葉（外国語）  
について

ボム： リトアニア人口は何人ですか？

ソルベイガ： リトアニア人口は 300 万程度です。

ボム： 少ないですね。その中で一人がリトアニア大表ソルベイガさんですね。

ボム： リトアニアはどんな国ですか。

ソルベイガ： ロシアの西の方にあるバルティック 3 国中の美しい国です。

ボム： 私もインターネットで写真で見たことがあります。色々な美しい風景をおさめた素朴な国だと思います。

ソルベイガ： リトアニアは世界にあまり知られない国であるが本当に美しい国です。地理的にヨーロッパとロシアの中間でリトアニアだけの独特の文学、音楽等芸術をおさめているし活気に満ちて進取的な民族と思います。昔の素朴な田舎の風景もちろん大切におさめています。

ボム： 1991 年度に旧ソ連から独立したが独立前はどんな国でしたか。

ソルベイガ： 私もその時は幼くてよく分からないがリトアニア国民皆がかつてから独立がほしかったし、一つ二つ難しい事を経験して大変に得た独立だから今はもっと大切にしなければならないとおもいます。

ボム： 国を持つようになったリトアニア人たちに独立がいくら大事な事か直接感じることはできなくてもどの民族にも同じだと思い

ます。そして独立以後に守って行かなければならないことが多いと思います。 ソルベイガさんは何を大切に守って行くつもりですか。 .

ソルベイガ： いろいろあるが私は言語に関心が高いので言語を守ろうとします。

ボム： 国家が存在してから言語がなければ国家自体も多くの困難があると思います。言語の中には国民の感情、国民性等さまざまな感じ、イメージ等がとけていると思います。

ソルベイガ： リトアニア語は昔の言語として独特の言語と同時に学びにくい言語だと思います。

ボム： それで大切に守って行かなければなりませんね。  
リトアニア人はその独特の言語を守るために独立が願ったかも知れないんですね。  
ソルベイガさんが日本語を学ぶ理由が何でしょうか？

ソルベイガ： 外国語勉強がかつてから好きでした。 15才頃から。

ボム： 今日日本語を学ぶことまたリトアニア語を守って行くため、知らせるためにであるかも知れないんですね。 ソルベイガさんと話すうちに私がもうリトアニア語を一言二言学んでしまったからです。

ソルベイガ： 私もよく分からないが。笑ってしまいました。ははは。

ボム： こちらで生活してたまにリトアニア思い出す時がありますか？

ソルベイガ： もちろんありますね。古い店とか古い木造建物に入って行った時独特の木においでリトアニアを感じたりします。

ボム： 木香りで故国を感じますね。香りがある国、香りをおさめた国からいらっしやいましたよね。大切におさめなければならない香りです。香りをおさめた国、独特の言語をおさめた国、美し

い風景をおさめた国、よく知られない国、大事な遺産たちがある国だからこれからもっとリトアニアを愛しなければなりません。

### インタビューの纏め

ソルベイガさんのリトアニアに対する自負心と愛国は彼女が今外国で大変に勉強しているうちに自分も分からないうちに国に対するあこがれと愛情があったことを一つ二つ分かるようになって、もっと身で感じるできるようになったと思う。世界にリトアニア人の存在を知らせて、自分も世界を学んでいるソルベイガさんに拍手を贈る。

誰も分かっています。国は大事だということしかし知識でわからないことが世の中ではいろいろな存在しています。その中一つが国の大切さです。外国生活の体験を通じて一つ二つ心中に愛国を感じることも、外国を学んで行くこと、値打ちがある体験だが一番立派な教師だと考えます。

ソルベイガさんの外国語、言語に対するテーマの中でも国の大切さを感じることができました。国家の言語が存在するのに国家は永遠なことであり、言語は民族が活着している限り永遠なのです。身体どの部位より最大の力を発揮することは舌です。それはまさに言語です。ペンが拳より強そうに言語は潜在力ある国家として国家以上の存在理由だと思います。

### ディスカッション

時間：2003年6月29日

参加者：ボム（韓国）、リンヘイエイ（中国）

ボム： 中国で生まれて今に至るまでリンさんに中国という国はどんな国ですか。

リン： 中学生、高校生の時代には入試で国家について考えたことがなかったけれども、大学の時は私の将来と関係があるのでたくさん考えて見ましたがいつも不満だけ積もって行きました。

ボム： 中国は長い伝統と歴史、文明国家で昔から自負心を持っている国であり、数多く偉い人物、文化財などももっているではないか。

リン： もちろん歴史的では豊かな経験を持っているけどアジアだけではなく

西洋の国に比べてまだ開発中の国であるから今は多分少なからず難しさがある国だと思っています。僕だけではなくだいぶ中国の若者は外国へ行って生活したいと思っています。勿論まだ外国へ行くのも難しいけど。

ボム： けれども自分の国に対する愛国心は持っているでしょう。

リン： 昔と以前にはもっていたけど現在の中国は大きい大陸ほど大きい自負心を若者にあげなかったままので、、

ボム： 日本で見る中国はどうですか。

リン： 実際に中国を離れる時は知らなかったのが、日本へ来て見るともつと関心を持つようになりそうです。国は勿論、生まれてから生活した所なので。今、日本語を勉強しているが時々精一杯中国語で話したい時があります。それに我国についてニュースが出たら耳を傾いて聞き、どこへ行っても中国人として体に慣れている習慣、習性は直すのが難しいので私が生まれた国もまた捨てられない身体の一部だと思います。

## 結論

韓国のどんな詩人は“一つだけの我国は世の中で一番美しい花という名前だ。”と言っていました。それに韓国も中国もどの国でも今の国家を持つために多い愛国者たちの命を失われてしまいました。私の国に対して感じている愛情を我国にいた時はあまり気付かなかったのです。そんなに気にしないまま、当たり前のものであると思いましたが。ちゃんと考えると、今までいつも側にあってくれた我国、日本へ来る前には私が我国の中にあっただんですが、今は我国が私の中にあります。私がどこにいても、気にしなくても我国はすでに心の中に存在しているからです。嬉しい時心も嬉しいように、悲しい時心も悲しいように自分の国に向かう愛情は理由ない愛と思います。

## 諺一言

“きつねも死ぬときは生まれた故郷を向かって頭を置く。”

ここまでご協力くださったクラスさんたちとはっしさん、ヤモティさん  
アリガトウ。残念。。

終わり。。



# 漫画から得る宝

洪嘉惠

## 動機

日本で生活しながら、勉強することは私の夢である。今考えれば、きっかけは、日本の漫画だ。香港では漫画に対して、あまりよい印象を持っていないのも現実だ。漫画とはいえ、人にどんな悪い影響を与えるかということだけばかりが強調されてしまっているだけだ。そのため香港では、暴力やエッチな話しかないというのが、漫画につけられたイメージである。そのような勝手な考え方を認めるわけにはいかない、と私は思っている。

日本は「マンガの国」と呼ばれている。そして、出版物の中で、三分の一はマンガだそう。漫画の歴史もけっこう長い。でも、それより、人の漫画に対する気持ちが、香港と比べると、まったく違うということを発見しました。

日本では漫画は文化の一つとして扱われています。そして、読者も子供とは限らない。年や職業に関わらず、電車の中や、本屋でマンガ雑誌を読んでいる人は私にとってかなり印象的であり。本屋に入って見ると、手塚治虫（てつかおさむ）先生の作品をはじめ、様々な漫画研究の本が目に入る。そして、優れた作品を対象として、文化賞まで創りました。それは有名な手塚文化賞という。最近、「千と千尋の神隠し」がある国際映画賞で受賞されるのは、日本の漫画界の輝く極みではないでしょうか。

同じ物なのに、扱い方がそんなに違うのはなぜでしょうか。偏見ではないかと考えます。文化というと必ずかたくて難しいものというのではいけないと思うが、それは漢民族の伝統的な考え方かもしれない。

漫画の内容は浅いものだと、いったい誰が決めたのだろう。もちろん作品や人の見方などによって、そのものの価値が違うでしょう。

けれども、心を動かすものは全て芸術だ。皆さんはいつかドラえもんみたいな友達を持ちたいと思うことがあるのではないのでしょうか。ちびまる子ちゃんみたいなバカバカしくて、純真な夢を追いかけたこともあるでしょう。私もドラえもんのやさしさ、およびちびまる子ちゃんの純粋さを見た途端、心温められていくという気がする。

おそらく、私も漫画のその力でこころを打たれるのだろう。初めてで会えて、今でも一番好きな漫画は「幽遊白書」です。一応少年漫画だから、少女漫画みたいなロマンチックなシーンもないけど、その代わり、濃縮した内容の中で、人間関係、それぞれの感情関係について書かれた作品です。とくにこの作品で、幽助と仲間たちのお互いの深い信頼関係が描かれていると思った。

あまりにもあっさりした表現方法を使えばこそ、もっとも純粋な人間の感情が引き出せて、そのまま読者に伝えられるのは想像にかたくない、と私は思っているのである。

しかし、今の社会では、あまりにも功利主義を強調しすぎ過ぎだ。何をしても、自

分の立場だけ考えて、他人のことに全然目を向けないのが、普通です。兄弟でさえ財産をめぐる、争うことも珍しくないことだ。もしかして、ある歌詞の言うように、社会もだんだん利欲だらけになってしまうかもしれない：

『そして人は形を求めて かけがえのない 何にかを失う 欲  
望だらけの街じゃ 夜空の星屑も 僕らを灯せない』〔《世界が終わるまで  
は》、WANDS〕

だからこそ、純粋な心は今の社会にとって、けして無くしていけない存在にすぎない。漫画の一つの力は、子供の純粋な心を甦らせるかもしれない。それを考えてみれば、漫画は決して悪いものだけではないでしょう。

私にとっては、漫画はずっと私を支えてくれてかけがえのない存在と言えます。なぜならというと、漫画がなかったら、私の人生はきっと今とは違っていただろう。漫画が私に贈るものの一つは、夢だ。

「夢って、なに？」

今の時代には、夢というのはずいぶん贅沢なものに他ならない。確かに多忙な現代人にとって、生活だけを考えでも、大変だ。もちろん、夢を語る暇もないだろう。豊かな環境に育ってきた幼い私は、何の夢もなかった。高校の時、友達の皆もはっきり自分の進路を決めたのに、私だけはずっと彷徨っていた。

漫画を通じて、私は日本が好きになってきたから、やっと己の夢を見つけた。香港のある大学に日本研究の専門があるのを知ったから、一生懸命勉強していた。ずっと「マンガの国」と呼ばれる日本に憧れている私は、日本へ留学するために、大学の時アルバイトに没頭していた。漫画に出会わなかったら、多分日本に留学することもなかったし、香港で何のためすら分からないまま、働いていたことだろう。漫画と出会えなかったら、私は今何をしているだろう？漫画のおかげで、私は日本に出会えて、好きになってしまいました。

## ディスカッション報告

### ディスカッション1

参加者：IRENE さん♣、私（バナナ）◆、廉さん▲

時間：2003年5月26日午後5時半から六時まで

### テーマ：漫画について

IRENE さん：私は怖い漫画がすきな。読んでいるとき、いつもびっくりされてしまうけどね。なぜそういう漫画が好きかというと、多分現実世界から離れる感覚が好きかもしれない



い。

廉さん：私はスポーツ漫画を読むのが楽しいと思っている。素人の主人公の成長をみるより、もっとも天才の役が好きですよ。あまりに現実が好きじゃないから、論理とはやや離れた空想性あるものが大好きです。

バナナ：そうなの？私も天才が好きだけど、バカ主人公の成長は結構面白いさ。実に私は漫画に対して、特に好みがないかも。とりあえず、内容と絵が一番だ。例え絵がすごく綺麗だとしても、つまらない内容なら、私はやっぱり好きになれない。

IRENE さん：スポーツ漫画は私の好みではないから、読んだことがないよ。しかし、探偵漫画、金田一少年の事件簿みたいものがけっこう好きです。

バナナ：それじゃ、もしかして考えられるから。つまり考えというものが好きだから、探偵漫画を選ぶでしょう。

#### ディスカッションへの感想：

日本漫画の種類は異常に多いので、種類によって、ある漫画の特徴も違うと見られます。IRENE さんはや怖い漫画と探偵漫画が好きみたいだ。なせならと聞いて、怖い漫画から刺激を求めて、探偵漫画が彼女に考えられる空間を与えるからと IRENE さんは答えた。私は怖い漫画を読んだことがあるけれど、好みではなかったらしい。多分私という人は、とくに刺激を求める傾向がないかも。刺激より、私は思考性あるものが好きだ。探偵漫画の特性は読者を考えさせるということだ。私は探偵漫画あまり読まないけど、漫画を読んで、作品のメッセージとか、人物の考え方とかを考えることが好きだけど。

廉さんも漫画のファンだ。おかげで、いろいろな話ことができました。廉さんも IRENE さんも漫画の空想部分が気になるみたい。今考えてみれば、確かに私も空想のものが好きだ。幼い私は神話や伝統的な物語しか読まなかった。同じものを何度読んでも、まだまだ面白いと思っていた。現実から逃げたいのか？そうかもしれない。人だって、誰も現実から逃げようと思ったときがあるんだろう。発想のすごい空想世界に憧れて、ずっと幻想の世界でヒーローになりたいというのは、ただ私だけだと思ったけど、ディスカッションでそうでもないということに気付いた。

#### ディスカッション 2

参加者：パタリンさん♣、私（バナナ）◆、ハンさん▲

時間：2003年5月30日午後1時から2時30分まで

テーマ：漫画について、田中芳樹との出会い

今度のディスカッションはあまりにも長い過ぎて、その内容をまとめて、下記のことを発見していた（それについて、私の感想も書いてある）：

1. 内容は一番大事なメッセージを求める

初めて漫画を読むとき、私達三人ともに絵を見て、漫画を選ぶようだ。一応漫画だから、絵が大切だと思ったかもしれない。しかし、年とともに、内容抜きに漫画は語れないということに、やっと気付いてしまった。内容はつまらないなら、いくら絵が綺麗だとしても、なかなか読む気がなれない。何故なら、多分私という人は、考えが好きだから。ある作品を読んで、解説することは私にとって、一番楽しいかも。時々漫画を読んで、メッセージが探せないなら、ムカツクようになるのは、私の日常茶飯だ。

2. 簡潔さは漫画の特徴—考える空間を得る

漫画は複雑な物事を簡単化させる力を持っている。難しそうな歴史や古典文学作品に関わらず、漫画になったら、読みやすくなるに違いない。ハンさんはサイエンスフィクション（SF）が大好きで、田中芳樹さんの作品は SF より歴史のほうに近いと言った。彼女は歴史が苦手だけど、小説や漫画になる歴史のものが好きらしい。彼女がわかり易いという点は、漫画の魅力と考えた。私にとって、漫画の簡潔さは、わかり易いより、考える空間を私にくれるのはもっと大切だと思っている。簡潔だからこそ、想像しやすくなる。だから、その簡潔の内容から、深い意味を求めるのは、漫画の魅力だと考えている。

3. 空想と現実の選択—現実と向き合う勇氣

パタリさんとハンさんも空想物語は好みらしい。例え現実に不可能なことでも、漫画世界で可能になる。空想の世界で何が懂れるものも簡単に手に入れることが、あまりにも現実から離れるため、だから惹かれるかも。

私はある時期に空想のものだけ読んだけど、今現実性がある作品も読んでいます。年とともに、いつか現実と向き合わなければならないということが知り始めるだろう。私は漫画の中で、現実の部分を読むのが好きだ。特に現実にもいる主人公は自分と比べること、いつも面白いと感じる。

ある漫画の主人公は脆くて、弱いから、あまり人気がないけど、私は結構そういう主人公が好きです。完璧じゃないからこそ、それは人間です。脆いだから、いろいろなことを経験して、成長しなければならない。大体私も弱い人間だから、そういう主人公の成長をみると、自分のことを言われるような気がする。

元も無口な私は、人との付き合いが苦手だった。苦手だから、うまく付き合うことができる友達をうらやましいと思うしかなかった。自分は消極的な性質であったことに気付くとも、変わるのができなかった。正直に言って、そんな自分が大嫌いだった。ところで、漫画で内気な主人公をどうやって変わるのを見れば見るほど、ある答えが出て来た。ただうらやましいなら、何も変わらない。他人の助けを求めより、自分から初めの一歩が大切だ、と。

#### 4. 漫画で勉強しよう

そこで、ハンさんと漫画の扱い方について、いろいろ話し合ってもらった。文化がないと非難されつづける漫画は、本当におもしろいかなれないの？私にとっては、これは捕らえどころのない疑問である。実際に、日本の漫画はかなり真面目です。漫画を描くだけと言っても、様々な準備もしないではいけない。例えば、専門書を読んだり、専門家に意見を求めたり、現場へ行ったりすることは、漫画家にとって、決して珍しいことではない。

漫画の内容は専門書とは比べられないが、それは当たり前のことだろう。元も性質が違うものだから。私は漫画が専門書の目次だと思う。目次を読んだら、少し内容が理解することができて、もっと深い内容を求めるなら、専門書やニュースなどに尋ねよう。私はいつもそういう風に考えている。スポーツ漫画を読んで、それが面白いなと思ったら、あるスポーツのことに興味を持つのもおかしくない事だ。ある歴史的な漫画を読んで、日本の戦国時代やお城などに興味を持つようになった。専門書まで読んだり、買ったりするほどだ。多分漫画を読んでなかったら、私はお城と出会えなかったかも、もちろん好きにもなれないだろう。

### ディスカッション3

参加者：私（バナナ）◆、ハンさん▲

時間：2003年6月6日午後1時から2時半まで

テーマ：田中芳樹との出会い（田中芳樹との出会いより、人生についての方がもっと適当だかもしれ。）

ハンさんとの討論の中で、自分の人生について、いろいろを話していた。驚くことは、私たちの考え方とか、経験などを重ねるものが異常に多いようだ：

1. 才能がほしい
2. 努力が不足
3. 個性的な人生を過ごしたい
4. 現実と向き合いたくない

#### おまけ：

田中芳樹さんと言えば、日本の SF 作家が、中国や香港などにも人気がある。絶大な支持を受け田中さんの小説は、漫画化およびアニメ化するのも当たり前なことである。そういう田中さんの小説は架空の物語と言うより、SF 元素を上手く組み入れる歴史小説と言った方がずっと適当だと感じている。物事をはっきり言うのは、田中さんの作品の特点である。主人公はまさに自分の申し子のように、政治への不満をことごとく指摘する。田中さんの作品は広い世界観を持っているので、それを読むだけで、人生の行く末も見えるとハンさんは語っていた。

#### ディスカッションへの感想：

確かに今度のディスカッションはハンさんのテーマについて語れるけれども、あまりにも私達が似ているので、話し合うたびに、彼女の田中芳樹さんへの気持ちと私の漫画に対する気持ちが大体同じではないか、と判明された。なせというのなら、たぶんお互いの経験や考え方も似ているからだ。

彼女は田中さんの作品を読んで、いつも共感するようだ。自分を考え込んでも出せない答えが、田中さんの作品で見つけだからだ。そういえば、私も漫画を読むたびに、抱く疑問の答えを探し当てることもあった。

自分の性格がよくわかるから、何をしようとする前に、必ず自分ができるのかなと考え込んでしまう。結局、退屈になって、何も出来なくなったのだ。そして、何よりも他人の見る目にどうしても気になる。自信がないからこそ、認めてくれてもらいたい。そのために、一生懸命優等生のふりをしようとしていた。結局、ある主人公のように居場所が欲しかったかもしれない：「あたしはあたしの存在価値を認めてくれる居場所がほしかった」。もとも縛られるのが嫌いな私は、そういうふうにするのが、やはり辛かった。しかし、漫画を見て、主人公の成長を見れば見るほど、自分にもちょっとずつ、自信を身に付けるようになった。

ある漫画の主人公は親への期待を裏切らないため、精一杯勉強して、やっと有名な高等学校に入った。そういう主人公は洋服デザイナーを目指す学生らに出会えて、無理やり学園ショーのモデルをさせてしまう。それはきっかけで、初めて自分のこと真剣に考えているのは、その主人公である。今でも印象が残っているのは、主人公のあるセリフだ：「誰のためでもない、自分の人生を歩くって決めたんだ」。

私は私だから、誰の真似する必要もないし、自分の個性を持ちながら、選んだ道を歩けば良いのだ。そう、ただそれだけで、結構だ。たとえそれはある人にバカな真似にされても、もう怖くない。その点からみると、漫画というものは、私に自信を教えてくれるに違いない。

## 結論

漫画は私にとって何だろう？初めてレポートを書くとき、頭の中で浮かんできたのは、そういう疑問である。読書が好きな私は、なぜ漫画から影響を受けたばかりなのだろう。何で小説や雑誌ではないかと考えてみても、答えがなかなか出てこなかった。

今考えれば、多分私は漫画から様々なことを教えてもらったかもしれない。その中、一番大切なのは、一体何でしょうか。ディスカッションする前に、夢だと思い込んでしまったが、今はそうでもない気付いた。今まで長いとは言えない人生を振り返ってみて、私はずいぶん長い間、自分を隠しようとしていた。本心が他人に見せようとしなかった。しかもそれがそれでいいと思う私だった。

本心を隠しながら、他人に理解をもらえたいなんて、私もずいぶんわがままで、ずるい性格を持つ主だった。実際にそれは自信がない人々の一番の苦しみだ。誰も私に求めていないけど、私のそういう性格をしていだからこそ、自分を縛ってしまったかもしれない。

初めてよく知らない人に声を掛けたのは、やはり同じ漫画好きな人だった。共通点があるから、いろいろな話できるかも、もし友達になれるならいいなと思った。それは、最も重要な一歩であった。私にとっては、すごい進歩ともいえるのだろう。

気が弱かった私は何もできなかったと言うより、逆に私はできるのかという疑問を抱いていた。言わば臆病者だった。できない訳ではないが、そういう風に考えるなら、本当にできなくなってしまふ。

漫画と出会えて、ちゃんと自分の意識を持つようになった。自分の力で日本に留学する夢叶えるなんて、昔の私には想像しかできない筈であった。漫画は私の力になり、私に夢や

勇気や自信を持たれてくれた。換言すれば、私は漫画からもう一人の自分を見つけた。それは今の私である。

# コンピューターと人間のコミュニケーション

ジョージ ホワン

## 目次：

動機

ディスカッション

其の壱、感想壱、其の弐、其の参、感想弐

結論

終わり

## 動機：

私の最初のコンピューターは、父の友達がセットアップした古いモノクロムモニターがあったコンピューターだった。子供だから、ただゲームのためにあのコンピューターを使った。高校生の時、レポートを書くのため、初めて自分のコンピューターを親から買って貰った。あの時は、電話回線を使ったので、本当に遅かった。だが、遅くても、インターネットを使えた。

大学の時、学校の寮で住んでいた。私の大学は、一年生と二年生が寮に住む校則がある。この条件のせいで、悲しい大学生の生活が始まった。私はカリフォルニア州出身なので、東アメリカ（メリーランド州）の生活や車がなかったことが慣れなかった。高校時代の友達が、一般的にカリフォルニアの大学へ行った。メリーランド州とカリフォルニア州は3時間の時差がある。カリフォルニアの友達はまだ外に遊び時、私にとってもう休む時間だった。友達とネットで話したいなら、午前2-3時までできなかった。疲れても、友達と話やゲームしたのため、遅くても起きていた。

昔は、友達と連絡したい時、電話をした。大学から、ネットでメッセージする。何か伝えて欲しい時、Eメールする。私は、昔から話より、書きの方が自分の感想を教えやすいと思うんだ。メッセージは、話し言葉を使うけど、書くの表現だ。だから、私にとって、もっと自然だと思う。あまり知らない人と話し合い時もそんなに緊張ではない。

ここで、水曜日に体験した事を話したい。大学の時からICQというメッセージングプログラムが使っている。しかし、この二年間は、あまり使わなくなった。先学期から、早稲田の友達と連絡のために、もう一度使って始まった。アパートに帰って、もちろんちょっとメールとメッセージをチェックした。そうして、卒業後全然連絡しなかった友人のニックネームを見た。「メッセージして見よう」と思って、はっきり簡単に「Hey, long time no see! (おい、久しぶり!)」と書いた。彼とメッセージして、彼が私に電話することを決めた。彼は、今アメリカのテキサス州で暮らし、AMDというの会社で働いている。「電話したのに、ジョージと連絡とれなかった、」私の友達そう言った。実は、私はカリフォルニアに帰った後、すぐ新しい携帯番号に換わったんだ。さらに、私が台湾で滞在するばかり、弟も自分のアパートで住んでいて、アメリカの家は誰もいない。彼は何回も私に電話したのに、返事がなかった。もし、私が彼にメッセージを送らなかったら、ずっと連絡できないかもしれない。

私の家族は、世界でいろいろなところで住んでいる。大体アメリカと台湾だが、日本もブラジルも家族がある。<sup>おきな</sup>幼い頃、皆と一緒に、大体爺さんや婆さんの誕生日と記念日など、つまり、あまり従兄弟と会わなかった。会った時、皆が違う言葉を話して、大変だった。ネットのおかげで、Eメールはとても便利なので、もっとよく連絡している。私は、日本で住んでいる叔父さんの家族とメールして、わからない事はいつもお世話になる。従兄弟二人とも私と大体同じ年齢だし、興味も近くし、親しくなっている。

私にとって、コンピューターがツールだけではなく、人間の新しいコミュニケーション方法と思う。祖父と祖母が台湾で住んでいるので、父は大体台湾でいる。大学へ行った前、年間は、父と三、四ヶ月くらいだけ一緒に住んでいた。その原因で、父とあまり話しなかった。数年前、私が父にパソコンを作ってあげて、父はネットを使えるようになった。今よくメールを送る。家族のこととか、考えこととか、台湾の伝統文化や仕方とか、色々なメールを送ってくれる。前より、もっとよく“話す”。父のことも前よりもっとわかる。ペンで手紙を書くことは、時間をかかるし、郵便局がいつ手紙を送れても分からないし、本当に不便だと思う。Eメールはすぐ送り、どこへもできる。いつも、大切な人を連絡できる。どの大きな地理距離があるも問題ない。心の距離は短くなるだろう。

## ディスカッション：

### 其の壺

相手：ファンさん（出藍）

時間：五月三十日

ファン：ジョージのテーマは、人間のコミュニケーションですね。

私：うん、そうです。

ファン：ネットは、コミュニケーションの一つ方法ですが、便利さと速さ以外、他の方法より、どうしてネットが必要ですか？

私：ええ、ネットといえば、やっぱり、ただ新しい方法ですね。昔は、手紙を書いて、相手に送りました。次は、電報でした。そうして、電話、ケータイに変わりました。だから、私のタイトルは、人間コミュニケーション進化論と書いています。

ファン：じゃ、特に必要がなくて、他の方法と同じですか？

私：でも、便利さと速さは、ネットの特徴じゃないですか？もしどの方法でもいいなら、どうして皆さんは電報を使わないですか？さらに、メールアドレスがあれば、ずっと連絡できるでしょう。

ファン：メールアドレスは、普通の番地と同じことじゃありませんか？友達のアドレスあれば、ずっと連絡こともできます。

私：そう言っても、現実は違うでしょう。友達の新しいメールアドレスを貰うことは簡単です。しかし、アドレスは、変更すれば、皆に教えてあげるのは、大変ですね。

ファン：ネットで、どんな人間関係ができますか？メールとメッセージングは、相手のことは知りませんよね。



私：私の場合は、メールはほとんど家族と友達にのものです。メッセージングは、二つタイプがあります。ICQの場合は、私の知人しか他の人にメッセージしません。もちろん、新しい友達ができるのですが、私はあまりしません。例えば、同じ興味がある人を探して、相手にメッセージすることもあります。それで、チャットルームの中で、話したい人がプライベートメッセージとか、そうすれば、新しい友達もできます。例えば、初めて早稲田に来た時、誰も知りませんでした。他の生徒と話して、だんだん仲良くなります。そのとき、ケータイ番号を上げて、仲間になります。それは、同じことと思います。

ファン：最後の文は「私にとって、」何々です。でも、これは、一般的のものではありませんか？ジョージにとってじゃなくて、みんなもそう思いませんか？当たり前でしょう？ジョージにとって、ネットはどんな特別な意味があるでしょう？

私：ええと、真中の文が例が入っていますが、もう一つの例は、私と父の関係です。祖父と祖母が台湾で住んでいますので、父は大体台湾でいます。数年前、父にパソコンを作って、ネットを使えてなりました。今よくメールを送ります。家族のこと、考えこと、色々なメールを貰います。前より、もっとよく“話します”。

ファン：それです！そんなことを最後の所に入れば、もっといいと思いませんか？それは、ジョージにとって、一番言いたいことじゃありませんか？

私：そうですか？でも、前も書いたので、最後の所にもう一度例を出せば、ちょっと変と思います。

ファン：テーマは、自分にとって、何々は、自分はマルマルことです。だから、そのことは、ジョージ個人的なことです。皆と同じ思いじゃありません。

私：そうかもしれませんね…

私の感想：

先週は、ジスウさんのテーマについて、私がジスウさんとボムさんと3人で話し合った。ジスウさんのテーマは、子育ての方法だった。一見して、私のテーマと全然関係なく、入れなくてもいいと思った。よく考えると、親子の関係は、人間関係の一つであることを理解する。自分の文の中も出ていた。ファンさん最後に言った言葉のおかげで、とてもいい例を出して来た。人間関係は、一緒に暮らして、物理的なことだけでなく、心のコミュニケーションだろう。

其の式

相手：ファンさん（出藍）、ミシガン州立大学講師の萩原さん（<sup>はぎわら</sup>見学者）

時間：六月六日

先週のディスカッションは、わたしのテーマの話ばかりなので、今回のディスカッションは、ファンさんのテーマについて、話し合った。最後に、私のテーマについて、萩原さんに簡単に紹介した。実は先週末、私の一番年上の従姉のウェディングBBQだった。彼女は今サンホセに住んでいる。色々な原因で、家族のメンバーは出て行けなかった。彼女の弟（私よりも年上）は、インターネット用ビデオカメラ（WEBCAM）で、BBQを中継<sup>ちゅうけい</sup>した。毎週のディスカッション時、自分の経験が出て来て、新しい

ことを話せる。この経験は、結論に入るつもりだ。

### 其の参

相手：アさん（李三）

時間：六月十三日

ア：コミュニケーションについてどう考えてる。

私：情報を交換するだね。コンピューターのこととか、自分のコンピューター経験とか、私は最初からそんなことを書きたいけど、結局、自分と家族や他の人間関係のコミュニケーションを書いた。

ア：ホワンさんにとって、パソコンを使って、人々の交換をするという意味ですね。

私：そうです。

ア：僕とは同じですけど、もちろん家族や友達とEメールくらいすると誰もそのようなことをやるんですけど、自分にとって一番大切なのはパソコンを使えば、仕事が交流することもできます。

私：アさんはビジネス角度から書きたいですね。パソコンはやはりこの前のほかの機械と同じだ。最初工業や会社の使う物だけけど、だんだん一般的な国民生活に入って、普通の物になった。例えば、携帯とインターネットは、元はアメリカの軍隊のために研究して、作った物だった。でも今は普及な物になっている。パソコンは同じだ。

ア：なるほど

私：それから専門家は研究、計算など使うだけではなく、今皆さんは買うことができる。使うようになった。

ア：もし、いまパソコンがないならどう思う？

私：想像ができない。

ア：何か不便なことがあるんですか。

私：やはり不便になります情報が少なくなるとか、銀行のサービスや買い物ネットができないとか。アメリカでは、料理も注文できるし、私の大学の友達は、いつもネットで晩御飯を注文していた。

ア：へへへ、それは、コンピューターがない時は、生活がならないなあ。

私：逆に、パソコンを使い過ぎる人もいるんだ。長い時間にパソコン前に座って、ゲームして、、死んでしまったことも、アメリカのマスコミがよく出て来る。もちろんそういう人は、多分体が問題があるし、不健康な生活暮らした。

私：普通な人はEメールぐらい使うけど、パソコンは生活の一部ではない。私達はよく使って、未来派的な人なので、生活がならないかもしれない。

ア：あの、（文の最後の部分）どんな大きな地理距離があるも問題ないと書いて、それは、コミュニケーションあるから、他の国でいる友達もいるという意味か？ほかの意味がある？単純な距離の問題？

私：それは、もちろん、今皆留学生だから、家族と友達は海外で住んでいる。でも、私の場合は、自分の家族は色々な国に住んでいる。家族の人と会う機会あまりなかった。やっぱり言葉の問題だった。

会ってもコミュニケーションできなかつた。コンピューターが普通になった前、自分の従兄弟はあまり知らない。例えば、ずっと日本で住んでいるの従兄弟の二人は、小さい頃、いつも日本語で祖父、祖母と喋った。私は、台湾語しかできなく、話し合ったことは、全くできなかつた。

ア：それは、距離ですね。

私：もちろん、今は皆も英語少しできるし、私も日本語もできるし、まだ下手だけど、大人になって、今は、Eメールをして、写真を送って、もっと有意味な関係になる。

ア：やはり家族関係が深くなるでしょう。

私：友達や新しい人とコミュニケーションするだけではなく、私にとって自分の家族が一番大切と思う。

ア：Eメールは便利だ、どこでも連絡ことができるね。

私：うん、そうね。私の叔父は盛岡で住んでいる。小さい頃、日本に遊んで来たとか、叔父の家族が台湾にいたとか、そんな場合以外あまり見なかつた。今は、よくメールに書いて、日本のことを教えて貰う。

ア：携帯のは？

私：私は携帯を持っているけどあまり使わない。アさんは、携帯を持ってないと聞いた。

ア：はい、そうです。もちろん家に電話あるんだけど…

ア：国際電話のためにパソコンを使うほうがいいと思わない。

私：もちろんとても便利とおもうんだけど、使い方を知っている人はやっぱり少ない、プログラムの意味が分からなく、使えない。もし、使い方が簡単になると使い人が増えるはずだ。

私の感想：

ここから、新しい技術とか、便利な商品とか、暮らしやすいと使いやすいコンピューター生活のことを話した。私達は、テクノロジーと関係あるものが熱中ので、午後の授業の時間ずっと話し合った。二人のテーマは、コンピューターを使って、コミュニケーションできることは、同じ意見である。私の観点は、人間関係のツールが、アさんには、コンピューターは職場のツールだ。本当に楽しかったディスカッションだった。会話が全部書けば、多分4-5ページになる。しかも、オタク連中の会話だったので、そういうことが興味がない人にとって、意味がないと思う。本気に、90分の時間は、少ないと思う。特に気に入るのは、アさんと前にファンさんと同じところ（文の最後の部分）ほとんど同じ質問を出た。やっぱりその部分は、もっと詳しい説明するが必要である。

結論：

「今は、私達がメッセージツールが使い過ぎる。ある人がネット中毒みたい、学校や仕事のことは怠慢である。分かるけど、使わないことができない。」

これは、最初動機が書いた時、日本人の親友からのコメントだ。最初は、ジスウさんとディスカッションした時の報告に入れたが、今、結論と大きな関連があると思うので、ここに入れたほうが良いと思う。

皆さんとディスカッションした時、コンピューター（インターネット）でコミュニケーションすることに対して、いつもいいところだけ話した。確かにEメールやメッセージングプログラムのおかげで、大切な家族や友達などいつも連絡できるようになる。家人の関係が深くなることも事実のだ。それは、インターネットのいいところだ。しかし、何も反面がある。友人の言った通り、ネット中毒が、とても現実的な問題である。ネット中毒は、私もよく分かる。現実から逃げる方法の一つのだ。現実生活がとても辛い時、ネットに通して、辛いことを忘れる。私の大学生活は、とてもつまらなく、悲しかった。したがって、いつもオンラインして、高校時代の友達と話した。今でも、毎日オンラインしなければならない。しかし、前と比べて、今はいつもオンラインの原因は違うと思う。今は、インターネットは生活の一部になっている。ただの現実逃避の手段ではない。現実生活で会えない友達とネットで話す時は、本当に楽しいだ。最近、MITで研究している大学時代のルームメイトから、彼はその時からずっと付き合ってる彼女とこの夏に結婚する予定だと聞いた。心からよかったと思った。大学卒業後、時々メッセージングプログラムで彼を見た。MITの大学院生なので、彼はいつも忙しく、普通はオンラインする時間がない。もし、コンピューターで連絡することはできないと、多分大学卒業後、全然連絡しない。そうして、こんなうれしいことも永遠知らない。コンピューターで、どのように忙しい人も、簡単に大切な人と連絡取れる。Eメールは、2,3分しかかからない。しかし、そのシンプルな行動は、一生続く友情を守れる。

## 終わり：

コミュニケーションは双方向な物とは限らない。むしろ一方的なほうがよいこともある。誰でも落ち込んだりすることはあり、そんな時に、ただその気持ちを聞いてもらえるだけで、楽になることもある。一方向でも意味あるコミュニケーションは可能だ。女性の友達から聞いた面白く、深い意味がある現象は「女の子が何に不満な時、彼氏から意見や解決の方法貰いたいではなく、彼氏が自分言ったことを聞いて欲しい。」大学の時、私もよく友達の悩みを聞いた。マリーランドにいた私は、何も出来なかった。けれども、友達が自分の悩みを言って、気持ちよくなっていた。「聞く」というのは、コミュニケーションの中で、一番重要なことだと思う。聞いてないのは、コミュニケーションではない。

嵐の皆さんとリーダーのはっしーとヤモティ、今学期はとても楽しかった。皆と一緒に話したり、遊んだり、映画を見たりして、いい友達になっている。今学期で1年間の勉強を終了の私は、別科を継続するので、また会えるね！

## グループ「嵐」で活用されたBBS

橋本弘美

今回の総合の授業では、前回までのようにメーリングリストではなく、インターネットのBBSを使って、掲示板上でやり取りをした。検討用原稿はもちろん、授業の事務的連絡、また授業が終わってからの「おしゃべり」など、さまざまなことがこの掲示板に書かれて、やり取りが続いた。文字だけではなく、デジタルカメラで撮った写真もアップされることがあった。総合の授業風景や、パーティーの様子などである。なかでも印象深かったのは、「誕生日の写真」である。総合の授業の日が誕生日だった“Mr. ラッキーさん”に、グループの全員が内緒で、それぞれひとつずつ昼休みにプレゼントを用意した。それは、玉ねぎ、人参、ジャガイモ、ブロッコリなどなどで、一人ひとりが順番に渡し、最後に「カレールー」を渡す、というアイデアの贈り物だった。みんなで大笑いしたあと、彼は、それらの野菜を使って作ったおいしそうな「カレー」の写真をBBSにアップしてくれた。

このように、写真も含め、嵐の掲示板の書き込み数は、最後の週には245にもなっていた。3ヶ月間の嵐の、日記のような記録である。このやり取りを見ると、3ヶ月間のいろいろなことがよみがえってくる。

このBBSの掲示板では、総合の授業では見えなかった、皆さんのオモシロイ部分もたくさん見ることができた気がします。皆さんの素敵な個性に、授業だけでなく、BBS上でも出会えて、とても楽しかったです。嵐の皆さん、どうもありがとうございました！

# 水泳から得たもの

## 次目

李策

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1. 動機         | 1~2 |
| 2. ディスカッション報告 | 3~7 |
| 3. 結論         | 7   |
| 4. 終わりに       | 7   |

### 動機：

幼い頃、体の弱かった私は、父の勧めで、5才から水泳を始めました。当初は、練習の厳しさから、何度ももう止めてしまいたいと思いましたが、水泳を離れたときの私は心の中が空虚で何か大きなものを失ったような気がして、結局プールから離れることはできませんでした。厳しい練習の日々でしたが、それを乗り越えていくうちに、弱かった体は次第に改善され、記録も向上し、中国国内の各地の大会への遠征にも参加することができるようになっていったのです。

私は、小学校を卒業した後、プロ選手になりました。私にとって、それは大きな誇りでした。しかし、そのために、弊害も起こりました。私は普通の生徒であれば学ぶはずだった教育をうけることができなかつたのです。私は水泳のために、中学校、高等学校の教育課程のすべてうけることができませんでした。そんな私にとって、大学に進学することはもちろん、日本に留学して日本語を学ぶことなど夢のまた夢でした。

しかし、1997年に、北京で開催された世界水泳大会で第六位に入賞することができたことで、私の人生は大きく変わりました。その大会の結果が評価されたことで、私は、上海同済大学の予備科に入学することができたのです。大学の予備科というのは、高校三年生の課程です。しかし、普通の高校三年生

の進学コースとは違いますから、私のようなスポーツをしていた学生は、体育生と言われ、予備校の課程を受けなければならないのです。しかし、この予備校の一年コースを終了すれば、大学への入学が許可されるのです。こんな大きなチャンスをもたらえたことは水泳を続けていたからなのです。本当に水泳のおかげでした。

しかし、現実の問題として、中、高の教育課程を受けていない事実は、私にとって、予想以上の大きな壁でした。私自身、確かに必死に努力をしましたが、遅れていた勉強を取り戻すことには、一言では言い尽くせない苦勞がありました。

しかし、やがてその苦勞が実を結ぶときがやってきました。努力の成果が実り、無事卒業することができたのです。卒業後、私は上海の日本企業に就職しました。しかし、そこには、次の現実の大きな壁が待っていました。大学で日本語をしっかり勉強してきたにもかかわらず、それを仕事に全然生かすことができなかつたのです。喋ることも、聞き取ることもできず、文法も間違いだらけなのです。そして言葉の壁以上に、実社会のなかで直に触れることは分からないことばかりだったのです。私は、今まで以上に勉強することの必要性を肌で感じました。経済の高度成長とともに、社会は日々変化を続けています。新しい社会の変化にしっかり対応できる力をつけていくために学ぶことがもっとも必要であることを強く感じました。そしてそれは、昔、私が失ったものを探すことでもあったのです。私は、まずより実践的な実社会に対応できる日本語を学び習得することを決意しました。そのために、わたしは、日本に留学することを決めました。そうする中で、早稲田大学への進学が決定したのです。

現在、私は充実した日々をおくっています。瞬間瞬間が向上の日々であることを実感しています。私の大きな夢は、今、一步一步その実現に近づきつつあるのです。日本語を学びはじめて、私は将来、中国で日本語の教師になりたいと思うようになりました。中国で日本語を学んでいる人たちにより有意義な勉強をさせてあげたいのです。私はそのためにこれからも必死に勉強を続けていきます。

振り返ってみると、現在私が日本にいて、大学でまなぶことができ、大きな夢をもつことができたのは、水泳をつづけていたおかげです。中国での大学進学は非常に難しく、勉強のみで、大学に進むことは非常に困難なことです。恐らく水泳をしていなければ、現在の私はいなかったことでしょう。私は水泳に感謝しています。そして、夢に向かってまっすぐに進んでいく。

## ディスカッション報告（1）

参加者：り、はっしー

- ・ はっしー：  
李さんのテーマについて、一番言いたいことは何ですか？
- ・ り：  
やっぱり、水泳に感謝することです。水泳のおかげで、いろいろ不可能なことも可能になってきた。
- ・ はっしー：  
不可能なことは可能になってきたという事とは何ですか？
- ・ り：  
たとえば、大学に入ったこととか、今、留学していることです。
- ・ はっしー：  
もし、水泳をやっていなければ、大学に入れませんか？
- ・ り：  
そうかもしれない、中国の大学の入学試験はとても難しいです。学生さんはいい大学に入れるように、みんな一生懸命勉強しています。特に高校三年生の学生達は朝7時から夜10時まで授業をやっています。家に帰ってまた自習をしています。毎日の寝る時間は4時間しかないです。私は小さい頃から勉強することが嫌いです。毎日、遊んでばかりいたので、もし、そのまま勉強し続けるなら、大学に進学することは絶対できなかつたと思います。
- ・ はっしー：  
うん、大学に進学することを考えたことがありますか？
- ・ り：  
うん、もちろん、考えたことがあります。でも、小学校を卒業した後、プロ選手になったので、ずっと水泳をやっていました。中学校や高校の課題はあまり習っていませんでした。大学生になることは、ただ夢でした。その時、大学に進学する気持ちはそんなに強くなかつたです。
- ・ はっしー：  
水泳と大学は、どっちが好きですか？
- ・ り：  
その時はやっぱり水泳のほうが好きです。
- ・ はっしー：  
そうですか。それでは、どうして水泳をやめて、大学に入ったのですか？
- ・ り：  
（笑う）実は、97年の試合が終わった時、監督は私のことをまだ若いと思っています。そして、世界のチャンピオンになれない。若いうちに大学に入



るほうがいいんじゃないかと言われました。辞めさせられました。それは仕方がないです。辞めた後、最初は北京体育大学で勉強していましたが、偶然のチャンスがありました。上海同済大学に転校することができました。そして、留学することもできました。

• はっしー：

うん、水泳を辞めて、大学に入ったことに良かったと思いますか？

• リ：

そうですね。本当に良かったと思います。

• はっしー：

李さん、何のために日本へ留学したのですか？

• リ：

うん、私は大学が卒業した後、上海の日本会社で2ヶ月くらい働いていました。日本語はちゃんと勉強したのに、ぜんぜん、喋れないし、聞き取れないし、文法を使うときも間違ふところが多いです。そのため、もっともっと勉強したいと思っています。日本語だけではなく、いろいろな事を習いたいです。日本に来る前に、将来はどんな仕事をやりたいか、はっきり分かりません。ずっと、迷っていました。でも、早稲田大学の授業を習っているので、私は将来の目標を決めました。まず、早稲田大学日本語教育研究科に入るつもりです。もし、できたら、卒業後中国に戻って、日本語の教師になりたいです。

• はっしー：

うん、そうですか。どうして？

• リ：

中国で勉強した日本語と、今習っている日本語はぜんぜん違います。

• はっしー：

どこが違うのですか？

• リ：

中国で古い文章とか、文法とか、あまり使わない言葉ばかり習っていました。とても、つまらなかったです。学生達は勉強する気持ちがだんだん弱くなってきました。授業をさぼる人数もだんだん増えつつあります。逆に、今の授業はとても楽しいです。留学生にとって、非常に役立つ課程です。

• はっしー：

そうなのですか。どんな授業が一番いいのですか？

• リ：

私は口頭表現と総合の授業が一番いいのだと思っています。理由は授業だけではない、みんなと一緒にいろいろな話ができるからです。言語学の専門の

学生達にとって、一番役立つのは、話すことしかないでしょう。毎日勉強するより、たくさん話す方が覚えやすいのだと思います。話すときは、時として難しい言葉や文法などが出てくるので、分からない時はよく考えるでしょう。次にあったときはすぐに思い出します。だから、たくさん喋るのは覚えやすいです。

- ・ はっしー：  
うん。でも、昔、わざと話の授業を行ったときにみんなはとても緊張していた。話はできなかったです。李さんはどう思う？
- ・ り：  
うん。そうですね！（笑う） 難しい問題を聞かれましたね！！でも、今の口頭表現と総合の授業はみんなぜんぜん緊張していないですね！話のテーマを決めて、いろいろな話をできると思います。最初、みんなはちょっと緊張しているかもしれない、でも、だんだん慣れると、話せるようになってくるはずですよ。リラックスしてくれば、絶対に面白いことができます。
- ・ はっしー：  
そうだよね！（笑う） ねえ！いままでの話は李さんのテーマからちょっと外れましたよね！
- ・ り：  
（げらげらと笑う） そうだよね！でも、今までのいろいろな経験は、すべて水泳のおかげじゃないですか？

ディスカッションへの感想：

はしーといろいろな有意義な話をした。どこの国の人々でも、将来のために、立派な人になるために、一生懸命勉強しています。特に中国の学生達はすごく頑張っています。実は、授業について興味を持っていたから勉強したのではなくて、試験のために勉強しています。本当はむりやりにしています。そうすると、勉強の本来の意味を失ったんじゃないですか。中国で今みたいな授業がありません。私は日本語を習っていたときは、口頭表現の授業ばかりか、日本語で話す機会さえなかったです。だから、私は、中国で自分の学校を作りたいです。有意義な課程を作りたいです。勉強したい人達に、もっといい授業を教えたいです。楽しい青春時代が、暗闇に落ちないように。自分が好きなことをすれば、いいじゃないですか。もちろん、勉強することは大切なことです。しかし、たまに遊ぶことも大切だと思っています。若い時代は思いが一番豊かなときです。もし、本当に自分が好きなことや興味を持っていることをすると、不思議な新たに発明することもできるかもしれません。どんなにおとなしい人でも、自分の思想を持っているでしょう。むりやりさせられると、いい影響がありません。逆に、心から反抗します。だから、好きなことをすることが一番

いいのだと思っています。

## ディスカッション報告（2）

参加者：リ、バナナ

バナナ：

監督はりさんまた若い、勉強するほうがいいよって、りさんはどう思う？

り：

その話を聞いた私は本当にびっくりした。水泳は私にとって、仕事のような大事なことです。急に止めさせられた、何をするかはつきり分からなかったです。

バナナ：

でも、最初は北京体育大学で勉強していたね、もし、転校しなかったそのままつづけていたら、今はどうなった？

り：

体育大学だから、普通の大学と違います。解剖学とか、裁判学を学びます。興味がないです。

バナナ：

でも、日本語を勉強し始めたときはあまり興味がなかったでしょう？

り：

そうですね

ディスカッションへの感想：

今の立場で振り返ってみると、水泳を止めた後、私の人生は大きく変わりました。いい大学へ進学することは人々の夢です。私も同じです。水泳を止めたことは自分の意識ではなかったですので、もうスポーツと関係がある仕事をやりたくないです。他の事を学びたいです。やっと大学で勉強することを味わいたから、もっと得にくいチャンスを惜しんでほしいです。

バナナ：

転校することに嬉しかったか、悩んでいたか？

り：

もちろん、嬉しかったですよ。みんなは大学へ進学できるように一生懸命勉強しています。逆に、私は勉強の苦勞を味わったことがないです。そして、進学できるようになった。とても興奮していた。

バナナ：

そうですね！中国で大学に進学することはとても難しいですね。じゃあ、どうして、将来は日本語の先生になりたいのです？

り：

二つ理由があります。一つはもちろん日本語が好きからです。もう一つは自分

の教え方通り日本語を学びたい人たちに勉強をさせてあげたいのです。

ディスカッションへの感想：

中国の学生たちは大学への進学、将来への道ために、たくさんの苦勞をしていたのに、そのために、楽しい青春時代を無理やり勉強することに捧げた。最後、大学に入られない人もいるし、学んだことと現実とのギャップとを感じる人もいます。一切の努力は水の泡となったでしょう。私は中国で学んだ日本語と現実とのギャップが深くと感じました。本当に役に立つ日本語を勉強したいです。現在の社会で知識の必要性和知っています。

**結論：**

体に丈夫になってほしいために、幼い頃から水泳を始めました私は長い間の努力をしていたから、プロ選手になりました。練習ばかりですので、普通の課程をうけていなかったです。だから、留学することどころか、大学に進学することもただの夢でした。

中学校、高等学校の教育課程のすべてうけることができませんでしたけど、水泳を努力した結果で、大学に進学することも、留学することもできるようになっていたのです。そして、いろいろな肌で感じましたことを通して、人生への道を見直しました。我が国で受けた課程は、今学んでいる課程との違いで、未来に茫然していた私に大きな影響されました。私は実践的な実社会に対応できる日本語を人々に勉強させてあげたいのです。だから、教師になれる道を決意しました。いままで、不可能なことができるようになった。水泳をつづけていたおかげです。どんなに困難があっても、私にはあきらめるわけがないです。夢に向かってまっすぐに進んでいく。何事も、手を抜かずに、頑張ります。目の前のことに全力を注いで挑戦します。その大切さを学んだのは水泳から得たものです。

**おわりに：**

時間を経つのははやいものですね！そろそろ前学期の授業を終わることで。この2ヶ月の授業は楽しかったです。みんなと一緒に話し合いは日本語を学ぶことに役に立つ。皆さんのおかげで、このレポートを最後まで完成しました。そして、日本語を話せるようになっていったのです。本当によかったです。いろいろお世話になりました。どうもありがとうございました。これから、もっともっと一生懸命勉強して、いい教師になれるように。

## 子育ての方法

ホン ジ スウ

1. 動機
2. ディスカッションⅠ
3. 私の感想
4. ディスカッションⅡ
5. 私の感想
6. 結論
7. 終わりに

好きなものはたくさんあって一つだけ選ぶのは難しい。それに好きになった動機とか理由とか、みんな簡単に長文を書くのも無理だと思っていた。だからここでは前からずっと考えていたことを書くことにした。そして書きたいのは子育ての正しい方法は何かという疑問。

幼稚園を経営している姉はもともと子供好きで、子供に多様なことを教えてる自分の職業にとっても自慢でしたが、いつの間にか相手はもう子供ではなくその親だという現実に苦しんでいる。実際に、韓国人と結婚したある日本人の母親は6歳の子を連れて国に帰ってしまったことがあってその理由を聞いたら”ここにずっといたら子供が馬鹿になりそだと言ったようだ。まだ6歳なのにほかの子だちはもう色々な事ができて、できない子供がむしろ馬鹿にされてしまうので、自分の子にそんなつらい思いをさせたくない、6歳のときは6歳なりの楽しみとか子供らしさだけ考えるように育て生きたいと。。。今頃、親の熱心が強すぎて悩んでいる子供の数が毎年増えている。単純に自分の子供への期待ではなくほかの親どもの競争のように、いろいろなことを子供に学ばせているのだ。それが社会問題になって話題になるのもめずらしくない。

私は5人兄弟の中ちょうどまん中。うちの母も結構理想が高く私たちへの期待があまりにも多く子供の頃、いろいろなことを習わせていた。語学からはじめ芸能まで、兄弟が多かったのでそれぞれの先生が家にいらしゃって教えてもらった。もちろん、苦勞した母には気のとくだと思っではいるのだが、残念ながら私はえらいものにならず、それでも何の不満もない普通のひと。あの時はどうしたらうまくサボるのができるかばかり考えるのが精いっぱいだった。いまでも、えらい人物になっていない私を悔しいそうに見ている母の目が痛い。もっとまじめにやればよっかたなあとちょっとは後悔もしたけど、しかし、もう一度子供になれるとしてもやはり習うより遊ぶのを選ぶのに間違いないだろう。

面白いことは一番いい子だった一番上の姉は子育てが母によく似ていて、自分の子

に同じような教育をしている。小学校2年生の姪は家族の中、誰よりも忙しく見える。学校から帰って来た後、次々と計画書の通り学んでいる。アメリカに住んでいるわけで日曜までも韓国語の授業がある。一方とても反抗的だった二つ目の姉は子供を自分のことは自分が決めるように育てている。大学校から何年間も子供教育を研究していて、専門家なりのノウハウもあったけど6歳の甥を見ているとなんとなく安堵感が起きる。学習的も技術的も6歳時の姪より下手だと子供らしく純粹で責任感も強くその似合わない調和が不思議だ。姪は姉に何かを聞く時”どうする？”と聞いて、甥は“どう思う？”と聞く。いい子でもなくあまり反抗もしなかった私は二つ目の姉のように育て見たい。自分が勉強したくなって勉強したら私も一緒に勉強する。遊ぶなら私が一番いい遊び相手になってあげたい。親子の関係より仲間として一緒に生きて行きたい。

最近子供に関していろいろな言葉がある。溺愛、放任、干渉、、、どれもけしていい言葉ではない。もし私の間違った教育で大切な人の人生が変わっていくと思うだけで怖くなる。それで、その大切さが子育ての方法は何かと考えていた一つの理由だった。

## ディスカッション I

自分が考えていったことを文章で表現して、それを他の人達と話してみるとなかなか面白い。どんな意見が出てくるかも予想できないし、同じテーマなのに 国によって、人によって様々な考え方の違いがそれなりの別の結論を出して、広がれて行く視野を感じるのも楽しみの一つ。

参加者；ボーム、ジョージ、私(洪知淑)

時間；2003年 5月 23日 3時間目

場所；早稲田大学 14号館 501室

私はボームさん、ジョージさんとディスカッションした。二人ともとても若く、また男性なので子育ての方法なんか考えたこともなく興味さえないと思ったんですが、色々な意見をたくさん話してくれた。

私；どうですか？ 子育てって難しいそうですね。

ボーム；最近、子供は欲しくないという夫婦が増えている。社会的な雰囲気、そのものだろうか、二人の人生がもっと大切で、子供の面倒に掛かる時間が勿体ないと思われる。僕はもちろん自分の子供が欲しい。

ジョージ；僕の両親の知り合いのおばさんは 年を取って子供を生むのが難しく、孤児院からもらった子供を育てている自分の子供じゃないけど立派に育てている。

私；そうですね、子供は面倒だと思っている人もいって、自分の子供でもないのに育てている人もいますね。さて、最近の子供をどう思いますか？

ボーム；今頃の子供は早くも成熟し、大人ばい。貴方の文章は時代はなれだと思ふ、昔の子供ならともかく、今の子供には通じしない内容だ。親と一緒に遊ぶ子供で、いじめられる可能性が高い。

私；。。。。

ジョージ；うん。。そうですね。例えば、日曜の朝、起きたらすぐアニメの番組に目が離さない、朝食べるのも大変ぐらい夢中。そして、次の日に、友達と皆で見たものを話すのも楽しみだ。

私；。。。。だから、アニメよりもっと楽しいことを考えて、子供と一緒にする方法をみつけないと、山登りとか、アニメよりずっと教育的じゃない？

ボーム；。。。。学校で教育を受ける、親は関心だけ持てば良い。まあ、山登りも関心がなければできないけどね。

ジョージ；学校では知識だけ、家庭の方が精神的な教育にもっと重要だと思う。

私；そうですね。子供は色が付いてない、自分の色を見つけて大人になる。そして白い色の子供がどんな色に変えていくか大きな影響を与える大人、その中で、一番近くの親の役割がどれほど大切なのかはいうまでもない。

ボーム；童心を持って、子供と目を合わせて、とりあえず、ここから始める。

　　そうでしょう。

私、ジョージ；そうですね。

## 私の感想

私の文章の内容は甘いとか、時代遅れだとか言われて、普通ならちょっとくらいは悔しいと思うのだが、今回は列外。なぜなら私自体もそう思ったことが一度もないとは言えないだからだ。口で話すのは容易だが現実はその甘いものではないと分かっているからなあ。しかし、現実それがどのくらい厳しくても人間は努力すべき。現代社会がどれほど発展したとしても、子供に対する親の役割は昔と変わらない。文明の道具に適当に任せて、子供の円満な成長を望むというワガママはしないで欲しい。

## ディスカッションⅡ

参加者；バタ、タマーシュ、私(洪知淑)

時 間；2003年 5月 30日 3時間目

場 所；早稲田大学 14号館 507室

バタ．タマーシュさんはハンガリー人で一人娘の父親。あまりにもペラペラな日本語でびっくりした。どうしてそんなに上手なんですかと聞いたら、なんと奥さんが日本人。でもただそれだけが理由じゃないなあとと思う、自分にもうちよつと厳しくしなきゃ。。。 (反省中。。。)

私；バタさんは両親からどんな教育を受けましたか？

バタ；私にはやはり父の影響が多かったんですね。母からはどちらかというと溺愛された記憶しかないです。

父は、小さい頃から自分のことは自分が決めろと言いました。責任を取るということがどういうものなのか、はっきり覚えさせて、色々な例を見せてくれたんですね。私が選んだのは、もしかしたら父は好きじゃなかったかも知れない。だが、父は一度も私の選択を反対したことはなかったんです。そういう、父の無条件的な信頼の上に、私はどんどん成長しまして、高教卒業まで、毎日、朝4時から7時までまず、勉強してから学校に行って、授業の後は、運動とか、ダンスなど、色々好きな活動をして過ごしました。もちろん、大学、将来のことも自分が決めたものです。

私；すごいですね。朝4時から7時まで、私なんか想像もできない。もし母が隣で殴りながらさせても、それは絶対駄目ですね、

バタ；慣れたら誰でもできると思うよ。

私；慣れるのが不可能だと。。言うのです。

とにかく、娘さんにはどんな教育をしてあげたいですか？

バタ；家の父のように私もなるべく自由にさせたいですね。真冬に袖なしを着たいと言いださなきゃいいですけどね。後は、私は娘に多くの物語を聞かせてあげたいです。本を通じて、間接的だけど、色々なことを説明することができるんですね。あくまでも親の役割は限界があるというものなので、いつまでも、近くにいる、守ることはできない。だから、どんな状況にも毅然としていて欲しい。例えば、失敗したことがある、という経験がどのくらい重要なのか分かっていて欲しいです。

私；テレビのほうはどうですか？

バタ；テレビを見せるのはよくないと思いますね。私も高校の時から見てないんです。想像力というものは人間にとって本当に大切なもので、それが、テレビによって、邪魔される可能性が高い。テレビからの情報を何の想像もなしにそのまま受けてしまう、だから、精神的に甘くなる、これが、今頃の、人々の大きい問題の一つだと思っています。もっと悪くいうと、子供にテレビをみせて、静かにさせて、自分の時間を作るといういけない親の一つの仕方にもあるそうですね。

私；そうですね。家の母もテレビを家においてなかったんです。馬鹿ボックスだと言



って、大切な時間をテレビにあげないように、それが理由だったんですね。いまでも、テレビはあまり見ないほうですね、だから、日本語がへたかもね、、、  
バタ；テレビをずっと見ている親って、よくないです。夫婦の生活も子供に大きな影響を与えているのに、家にいる時、テレビばかり見ている様子は情けない。一緒に、家事をやったり、色々な話題について話したり、ほかにも生活を豊かにする方法はいくらにもあるはずですね。  
私；そうですね、こう言った生活を豊かにする方法がもしかしたら子育ての方法かも知りません。

### 私の感想

彼は、子供はハンガリーで育て見たらどうですかと冗談のように言った。それも悪くないなあと思しながら、昔、アメリカの友人が言い出したことがつい浮かべてきた。“できればアメリカで子供を成長させたくない、世界で最も危険な場所だと思うわ”  
また、韓国の友人はこう言った“韓国で子育てるのはいやだ、ストレス満々で早く死んじゃいそう”、、、二人が言った場所と意味は違うけど、出発点は同じ、良い環境が何よりも重要だと思う、そういうことだ。広い地、富裕だけど時々恐ろしい事件の舞台になるアメリカ、狭く、極端な競争に疲れている韓国、それぞれ子供が成長するためにはいろんな不足点があるらしい。人が成長するのに環境というものがどれくらい重要なのかはいうまでもない。それに、人工的な環境なら特に、親が選ぶのが可能なので、例えば、テレビというものが、その中の一つなのである。世界で唯一テレビを見ることができなかった仏教国ブータンに46チャンネルのケーブル放送が入ってきたのは、1999年8月。それ以来、虫一匹殺すことさえ大きな罪としていた国に、突然色々な犯罪があふれている。“テレビのせいだ”とブータンの人々は一様に答えたという。最も独立した国までも<汚染>させたという現実が恐ろしい。幼い時に、テレビの暴力シーンに多く露出されれば、大人になっても攻撃的な性向を持つという研究成果も少なくない。もともと、テレビというのは文明社会に住んでいる人々に、与えられた贅沢の一つにしか考えていない。だが、テレビから受けられる有毒な影響に対しては、否定できない。もし、できるなら、最初からテレビなしの無公害環境を自分の子供に選んであげたいのが本音だ。

### 結論

文章を書き始めてからやっと、自分が選んだテーマがどれほど難しいテーマなのか気づいてしまった。書いて書いて、他の人と話してみても、その考えはもっと高まって行って、泣きながら後悔しても、もう遅い、というか、やはり自分の考えは甘すぎで、現実という恐ろしいもの、特に、子育ての方法なんて、最初から存在しないと、ベテランの主婦さんから聞いたとたんに頭が下がったと言ってもいいだろう。そうかも

しれない。

しかし、ここに書いたのは、あくまでも自分の物語。ただ、自分が考えてきたものを頭の中にもうちょっとはっきり定理して、私なりの希望だと言ってもいいし、あるいは、私だけの夢だと言ってもそれで結構ではないだろうか。

子供が時代の変化に合わせて変わっていくのを感じるのは、あまりにも悲しいことだ。今の子供たちは、前と違った表情をしている。これはひょっとしたら私の偏見かもしれない。でも、微笑して、それを素直に受け取れず、何気なく目を逸らすとか、ひどければ、警戒な目付きで見られるとか、をれに、もっと苛立つのは大人の態度だ。なぜ、子供を見ても、何の表情も浮かばないだろう。小さな笑顔がそんなに難しいはずがないのに、、、。多分、こういう大人たちが、育てている子供だからこそ、だんだん、子供の時期の特徴だと言える、暖かく、純粋な心得がなくなっているかもしれない。

私は、子供の心持ちはすべて大人次第だと信じている。冷たい人には、冷たい子供しか育てられない。それに、子供を自分の所有物として扱ったて干渉すぎしたり、単に責任を義務だけだという考えで放任したり、分身または血縁への執着で溺愛したりするのも絶対に間違っていたと言いたい。

温かい人の気持ちは、そのまま子供にも移る。お互い大事だと想っている仲間、相手がもし、子供だったら、これほど、幸せなことはほかにはないだろう。

## 終わりに

日本語の難しさを、ますます感じてしまいました。書いているのを誰かは理解してくれるのかなあと、毎度のように心配したそうなのに、はっしさんとヤモティさんは、内容までは言うまでもなく、細かい部分まで、私が言いたいものを書けるように助けてもらって、最後まで世話になった二人に心から感謝します。

後は、あまり興味もなく、面白くもない私の文章を辛抱して、ずっと読めなきゃいけないかった、その上、貴重な意見も聞かせてもらったクラスメートとバタさん、たけさん、本当に、ありがとうございました。

皆のおかげ様で、楽しく、総合の授業を受けることができました。どうか、皆、幸せになるように、これからも、もっと、楽しい人生を過ごすように願います。

## ドラマを通して、東京を見る

荘 嵐嵐

壱、動機

弐、ディスカッション報告

弐の壱、ディスカッション報告 PART 1

弐の弐、ディスカッション報告 PART 2

弐の参、ディスカッション報告 PART 3

参、結論

四、終わりに

### ■ 壱、動機

私は日本についての知識と概念を、全てドラマの中から知りました。13歳の時、日本の野球選手の鈴木一朗が大好きな友達から、日本のドラマを紹介してもらいました。中学の時は学校の寮生活だったので、週末にしかその友達から借りたビデオを見ることができず、平日は見ることはできないだけに、週末が楽しみでした。十代の私にとって、まだ日本語もできないし、貯金もあまりないし、台湾と日本はわずか3時間半の飛行時間であっても、私にとっては、日本は遠くて、永遠の届かないところに思われました。

ドラマ好きの私は、もちろん日本のドラマだけではなく、台湾、韓国、香港のドラマも見たことがあります。しかし、私にとって日本のドラマが一番魅力的に感じます。その理由は、内容が簡潔で、テーマもはっきり分かるからです。台湾と香港のドラマは、いつも長い話で、時代の流行の早さに全然間に合わないのが有名です。だから、初めて堂本剛主演の「金田一少年の事件簿」と言うドラマを見た後、ずっと日本のドラマに熱中しました。小説を読み込んでいる人と同じように、私も自分がドラマの主役になったような気持ちになり金田一はじめのように『謎は全て解けた』と言って、一人で殺人事件を解決してみたり、「ロングバケーション」の主役の南になって、ピアニスト希望の瀬名と素晴らしい恋もしてみたい・・・etc。時々、夢の中でドラマと似ている場面を見ることもあります。実は、ドラマを見れば見るほどその中に出てきた場面が好きになってきて、次第に内容よりドラマの中の情景にもっと興味が湧いてきたように思われます。

三鷹市の井の頭公園から、銀座のSONYビルにかけて、ドラマを撮影した場所が東京のいたるところにあります。ドラマを見ながら、私は主役と一緒に東京都内を旅するような感じになり、もしいつの日か日本に行ける時が来たら、絶対に見たドラマのロケ現場に行こうと自分の心に決めました。

16歳の時、ニュージーランドへ移住した後、すぐ日本語の勉強を始め、以前心に決めた事が、日本語習得の勉強の励みにもなり、日本へ行く夢の実現へ一歩ずつ近付ける事が出来ま

した。

全体から見ると、私は恋愛系のドラマと比べて、ギャング系や友情系のドラマが好きです。中でも一番好きなドラマは、長瀬智也と窪塚洋介主演の「池袋ウエストゲートパーク (I.W.G.P.)」(池袋西口公園)です。

「池袋ウエストゲートパーク」は真鍋マコト(長瀬役)と安藤タカシ(窪塚役)を中心にした池袋西口公園にたむろする若者たちの話です。タカシは公園の主なギャングの G ボーイズのリーダーで、マコトと一緒に「自分たちのルール」にしたがって、公園を守っています。

日本のことをもっとよく理解する手がかりとして、実際の場所に行き、自分で体験することによって、また違う現実の一面を見ることができるとは思い、先ず、最初に「池袋ウエストゲートパーク」の舞台となった池袋西口公園へ、2003年4月12日、私は初めて訪れてみました。

池袋駅の西口からへ、10分以内で到着できました。ドラマでは、若者がいっぱいいて、凄く大きな広場みたいだけど、実際の公園は、イメージと全く違って、お年寄りばかりで、小さなところでした。しかし、ドラマのファンとしてその場所に行き、ちょっとイメージと違っていました、行けたこと自体が嬉しいでした。毎日絶対ドラマを見るの楽しみにしている私にとって、ドラマとは活力の源です。その興味を生かして、ロケ現場を探すのは、私にとって、東京を広く知る有効な方法だと思います。

## ■ 式の壺、デイスカッション報告 PART 1

参加者：ランラン (嵐)、クッキーさん (出藍)

日付：2003年5月23日

場所：早稲田大学 14号館 510室

### ♪ドラマと現実....♪

ランラン:クッキーさんはどんなドラマが好き？

クッキー:私は、恋愛ドラマかなあ。

ランラン:えっ!恋愛系？

クッキー:うん、恋愛系のドラマが好きかなあ。

ランラン:どうして？

クッキー:それはね、現実には、起こらなそうな話が、ドラマでは起こるから。それが、面白いつていうかあ〜。それに、なんか、理想的なんだよね。ドラマの世界に入って、現実逃避しているのかもしれないね。

ランラン:そうだね。だから、恋愛ドラマを見た時、自分もその中のヒロインに…

クッキー:そう〜ヒロインになりきっちゃうの〜 (笑)

ランラン:夢見ちゃうんだよね〜 (笑) 例えば、ロンバケでヒロインの南さんになって、瀬

名と恋をするとか…でも、これは現実の世界では、難しいよね～（笑）

クッキー: そうそう～。でも、夢見るだけでも、結構楽しいよね～（笑）

#### [ランランの感想コーナー]

自分が恋愛ドラマの主演になる幻想するのは、年頃の少年少女にとって、普通だと思います。なぜなら、多分、クッキーさんの言っていた通り、現実には起こりにくいからです。だから、恋人が、いない人なら、こんないい相手はドラマ中しか存在ない；安定した恋愛をしている人は、ドラマ中で波乱万丈の恋に憧れる。「神様、もう少しだけ」の中で、援助交際で AIDS を感染された叶野真生（深田恭子役）は、死ぬまで、ずっと石川啓吾（金城武役）に深く愛されました。また、「眠れる森」の中、伊藤直季（木村拓哉役）は、大庭実那子（中山美穂役）のために、最後真犯人と決闘をし、死んでしまいました。私はギャング系や友情系ドラマが好きですが、このような、命をかけて死ぬまで恋をする場面を見て、涙が流れました。しかし、現実には、お金が全てを支配する世の中、ドラマの中の純粋な恋は、夢みたいだと思います。現実の生活では、毎日忙しくて、生活費、子供の教育費などに悩み、ドラマの中の話のように、結婚した後、楽な生活をするカップルは、ほとんどいません。

#### ♪ドラマを選ぶ時、....♪

ランラン: 今まで、一番好きなドラマは何？

クッキー: 日本のドラマっていうと、前もちょっと話した…Tokyo Love Story、Long Vacation（ロンバケ）、Love Generationしか見てなかったから…

ランラン: 全て恋愛系だね。（笑）

クッキー:（笑）うん、現実とかけ離れている恋愛系の、ドラマが好きだから。実は、ドラマを選ぶ時に、私の場合は、ヒロインの恋人役が誰なのか、とか、そのドラマが面白いのかどうか、判断しちゃう。ロンバケはキムタクが恋人役だったね。大体、キムタクが恋人役として出演するドラマなら、全般的に面白って思った…

#### [ランランの感想コーナー]

ドラマを選ぶ時、やはり内容の面白さより、ヒロインの相手役は自分が好きなアイドルかどうかのほうが関心をもつ人が多いようです。私はクッキーさんと同じ、堂本剛の大ファンだから、面白いとか、つまらないとか、関係なく、剛が出演するドラマなら絶対に見ています。一方、自分があまり興味のない出演者たちのドラマなら、どんなに良くても、見ません。しかし、このような思いを持っているために、他のいいドラマを見る機会が少なくなったら、ドラマの脚本家が一生懸命伝えようとする大切なメッセージも取れないで見過ごしてしまいます。母はドラマを見る時に、いつもノートに書きとっています。なぜなら、ドラマの中で使ったいい言葉や考えを覚えたいからです。確かに、現代の若者にとって、親の話より、ドラマから伝わる考えや言葉の方が受け入れやすいのです。

## ♪ “「東京」って、一体？” Part 1 / ドラマのロケ現場について.... ♪

クッキー：でも、ランランさんのテーマだと「ドラマを通して、東京を見る」だよ？じゃ、どんなドラマを見て、東京をどう見るのか、ちょっと説明してくれない？

ランラン：そうだね。私が書いた動機の通り、ドラマが好きで、ドラマの中に出てくるロケ現場を探したいし。だから、テーマの「東京」は「ドラマの中で使われた場所」だけで、「歴史」とか、「生活習慣」などの深い意味はないの。それに、せっかく東京に来たから、昔からずっと憧れたロケ現場に、どうしても、行きたかったんだ。

クッキー：じゃ、今、何のドラマのロケ現場に行ってみたい？

ランラン：今、一番探したいのは「きみはペット」の現場かな…スミレさんが働いている『東都新聞社』とか～。モモちゃんのダンス教室とか～。現場に行って、写真撮りたいな～（笑）ところで、クッキーさんは、今まで、ドラマのロケ現場に行ったことがある？

クッキー：あるけど、わざわざ探しはしないよ。あれは…つい行っちゃったの。友達に教えてもらって…

ランラン：それで、どう思った？その実際の現場とドラマの中でのと？

クッキー：うん、感じはほとんど違かったよ。でも、私が行った場所は観光地だから、ドラマの中より、風景はきれいだったけど。

### 【ランランの感想コーナー】

タイトルの「東京」は、大半の人にとって、深い意味があると思うかもしれない：例えば、ドラマを通して、東京の人々の生活習慣とか、東京の人文歴史などを理解できるなど。私にとって、「東京」は東京都内の、ロケ現場の場所としてだけで、意味は結構単純です。

それに、びっくりするやら失望するやら、ロケ現場に行った人たちの反応は様々でした。水曜日の「きみはペット」を見ながら、私のホストシスターは、「あれ？今、モモちゃんがダンスしている場所は門前仲町だよ～ほら、永大通り側の公園だよ～。この前、キムタクのロンバケで使っていた場所と同じだ。」と言った時、私は凄く驚きました。そのロケ現場は、今ホームステイしている家のすぐ近くで、なんか夢みたいでした。（台湾とかニュージーランドとかでは、こんな事は絶対ないからです。）

## ■ 式の式、ディスカッション報告 PART 2

参加者：ランラン（嵐）、クッキーさん（出藍）

日付：2003年5月30日

場所：早稲田大学 14号館 507室

## ♪ “「東京」って、一体？” Part 2 ♪

クッキー：先週ランランの感想によると、テーマの「東京」は場所だけなの？じゃあさあ、「東京を見る」っていうのは、東京の特殊な場所のこと？色々な場所があるでしょう？「東

京を見る」って、私は、『東京の生活を見るとか、ドラマを通して、東京の人たちはどういう生活をして、どんな食べ物を食べて、どんな服を着て、どんなものが見られるのか。』とか。初めて、そのタイトルを見た時に感じたよ。でも、ランランさんと話した後、ずっとこの問題を考えているの：『ランランさんは、ドラマのロケ現場を探した後、どうするのか？ランランさんにとって何か特別の意味があるのか？』とか。

ランラン：意味か...（この問題は答えない）（汗）

#### 【ランランの感想コーナー】

最初、このテーマ「ドラマを通して、東京を見る」を決めた時、私の考えは凄く単純でした。ただ、ドラマが好きだから、ドラマのロケ現場を探したい。という思いだけでした。「東京の場所」を限定した私は、クッキーさんに質問された事について、答えを見出せませんでした。：「東京を見る」って、一体どんなものを見たいのか？

前に書いた、動機の文中で、「私は日本についての知識と概念を、全て、ドラマの中で知りました。」と記したけど、テーマに対して元の考えは違っていました。11歳の時、初めての海外旅行で日本に来ました。その頃の私は、旅行の準備で忙しい両親と違って、ディズニー・ランドに行けることが楽しみでした。二週間の旅行で、私の記憶の中にある日本は、ディズニー・ランド、そしておもちゃがいっぱいある国でした。中学生になった13歳の私にとって、日本と台湾の相違点は、言語が違うだけだと思っていました。しかし、ドラマを見た後、私のその考えは、全て変わってしまいました。真面目な日本人サラリーマン、亭主関白な日本男性、様々なきれいなお菓子や食べ物、世界流行の中心地など日本についてことは全部ドラマから知りました。

そして、ドラマを通して、ロケ現場だけでなく、色々な場所から、東京の人文、生活習慣を見るのはもっと面白いと思いました。

#### ♪ドラマを選ぶ理由は、...♪

クッキー：東京を見られる方法としては、色々あるんだよね。本とか、旅行情報誌とか、もちろんドラマもあるし、授業を聞きながら、東京をみることもできるよね。でも、一体なんで、ランランさんはドラマを選んだの？このタイトルについて、ランランさんはどう思う？

ランラン：私が思うに、本とか、旅行情報誌とか、だけでは、あまり本当の東京を見ることができないと。それに、私にとって、本でいっぱい書いてあっても、本だけからだと東京について知る事が困難だよね。もし、ドラマを見てなかったら、本をいくらたくさん読んでも、東京の忙しい生活とか、日本現代若者の考え方とか、分かりにくいと思う。

#### 【ランランの感想コーナー】

クッキーさんの質問に対しての、私の答えは、テーマに対して、元の考えと矛盾がありました。ただ、ロケ現場を探したいだけで、本から東京についての浅い知識を知りたくは、ありませんでした。私は、ドラマを通して、もちろん日本人の生活形態だけでなく、新しい

知識と情報がもらえると思いました。「WITH LOVE」は現代男女がインターネットを通過して、恋をするロマンスです。今や、パソコンとインターネットは、現代人にとって絶対不可欠な物だと思います。例えば、通勤中のサラリーマンは、電車の中でノートパソコンを使い、学生は、インターネットで、レポートの資料を調べられるし、友達とゲームをする子供たちもいます。それに、人と人のコミュニケーションも簡単になって、ネットフレンドやネットラブもできます。「マルサ!!」、その背景は東京国税局査察部（通称マルサ）、脱税事件を調べる話です。普通ではつまらない話でも、ドラマを通して、おもしろくなり、『国税局』について新しい認知も得られます。この面白さや、多くの人に興味を持たせる事は、ドラマでしかできない事だと思います。

### ♪東京と言えば、どんな感じ？♪

ランラン: 最初に言った通り、私は台湾とかニュージーランドとか、住んでいたところは、ちょっと田舎で、あまり大都会じゃなくて。今、留学で東京へ来て、東京のような都会に住むのは夢のようなんだ。(笑) クッキーさんは大都会出身でしょう？やっぱり北海道の自然景色が見たかったりするの？クッキーさんにとって、東京はどんな感じ？

クッキー: 複雑で、人も多くて、物価は高いし、みんな余裕がない感じがする。凄く忙しい。余裕がないのはドラマからも良く分かるでしょ？人と人の交際範囲も狭い職場内に限られているし。**Love Generation**は、木村拓哉と松たか子出演のドラマで、会社内の恋の話だ。ドラマの中で、なんか、凄く忙しい感じじゃない？それを見て、東京の一部分を知ることできると思う。

#### [ランランの感想コーナー]

東京のことを話せば、大体、クッキーさんと同じです。東京の人口は一千万人で、もちろん日本人だけではなくて、首都だから、世界各国からの人も結構多くいて、いろんな人種の人々が混雑しています。また、それによって、各文化が融合され、世界的な流行を創り上げています。私は、ずっと田舎暮らしだったので、都会の生活やファッションなどに憧れていました。世界各国に都会はありますが、私は、東京にしか来たいと思いませんでした。なぜなら、一つの理由は、日本が大好きだからです。それに、もちろん大阪も考えましたが、一年間の交換留学なら、やはり自分が一番気に入る学校を選ばなければならないと思いました。

私にとって、ニュージーランドの生活はリラックスでき、楽なので、東京に住む人達の多忙な生活が興味深い。実は、楽な生活より忙しいのはもっと魅力的だと思いました。今の私は、若くて体力や頭脳が一番いい時だから、できることが全てやりたいし、もし、楽すぎたら、時間が無駄になります。

### ■ 式の参、ディスカッション報告 PART 3



参加者：ランラン（嵐）、クッキーさん（出藍）

日付：2003年6月13日

場所：早稲田大学 14号館 506室

### ♪留学生にとって、東京を知るいい方法は？Part 1 ♪

ランラン: 前の討論で、本とか、雑誌とか、色々な方法があるでしょうけど、私にとってドラマを見るのが一番早くて役に立つの。留学生にとって、『ドラマ』を通して東京を見るのはいい方法か？本当に役に立つのか？どうかしら？

クッキー: 私の意見では、ドラマや映画とかがわかりやすく、もし日本に慣れている留学生なら、ドラマを通しての方が、日本または東京が知れると思う。でも、あまりドラマが好きじゃない人だったら、本を読む方法もあると思う。けど、どういうことに興味があるか、東京のどの部分に興味があるかによって、ドラマになってくこともあるし、歴史の方になってくこともあるし、まあ～

ランラン: 私にとって、ドラマが結構大切ですよ。ドラマをいっぱい見たから、大体の日本に対するイメージができた。それに、他の国へ行った時、普通、カルチャーショックがあるでしょう？けど、私は日本に来日以降、あまりそんなショックがなかったです。実際の日本とドラマ中から知った日本は特別な違いがあまりなくて、すぐ生活に慣れた。

ランラン: 私のニュージーランドでの友達は、大半は留学生で、皆初めてニュージーランドに来た時、カルチャーショックに慣れるのに結構時間がかかった。でも、もしその国の文化とか、生活習慣とか、生活形態などを知っていたら、文化ショックは少なくなると思う。

#### [ランランの感想コーナー]

新しい文化に触れた時、感じられた差異とか、不適応などは、新しい生活に慣れる妨害になります。前もって、ある文化について色々なことを調べて分かったら、カルチャーショックも少なくなるだろう。今でも私の考えは変わらず、「もし東京を見たいなら、ドラマを見るのが一番いい方法」だと思います。なぜなら日本のドラマは、現実の生活に近い表現をしていて、流行に添っているものが多いからです。しかし、他の国では、こうはいかない。例えば、台湾のドラマは 100 話以上の長さにし、現実生活と関係なく、幻想で嘘ばかりの超陳腐な恋愛系が多いです。台湾のドラマを通して、台湾を見るのは、多分無理だと思います。

### ♪留学生にとって、東京を知るいい方法は？Part 2 ♪

クッキー: じゃ、ランランさんの思いで、東京とニュージーランドとの差はどう違う？

ランラン: そうですね。私はその前文章表現のクラスで、「ニュージーランドと日本の差異」と言う文章を書いた。あの文章によって、多分同じことはドライブの方向は同じだけで、他は全て違う。英語系の国だから、話す方法も日本の謙遜と違って、直接だよ。家庭の観念と考えも違う。ニュージーランド人は、人の目もかまわず、自分の感覚でやりたいこと

をするが、日本では無理かも。日本の男性は、やっぱり仕事が家庭より大切だそうだ。ニュージーランド人は絶対残業しないよ。お金より、家族との時間はもっと重要だというのがニュージーランド人の考えだ。

クッキー:へえ～そうなんだ。そういう面はニュージーランドはそうでしょう。そして、東京と随分違うね。それは、ドラマを通して、知ってるのね？

ランラン:うん、特に、日本人の「仕事」と「残業」に対する姿勢が印象的だった。ニュージーランド人はこんな場面を見たら、絶対信じられないと思う。家族との時間がなくなるのに、なぜ定刻の仕事が終わっても、皆家に帰らず、残業をするのか理解できない。これは、不思議だ。

#### [ランランの感想コーナー]

ニュージーランド人として、日本の色々な習慣に驚いたけど、日本人の場合なら、多分ニュージーランド人の考えも理解できません。理由は、国それぞれ独特な文化があるからです。

#### ♪留学生にとって、東京を知るいい方法は？Part 3♪

クッキー:でも、ドラマを通して、東京を見るのは分かったけど、そのドラマから出る場面が東京全体の一般的な様子だと思う？

ランラン:うん、私はそう思ったよ。

クッキー:東京で暮らしても、普通の人々はやらないことが、ドラマの中に出てくる人物なら、やるのも結構多いと思う。まあ、部分的には、ドラマを通して、東京を見るのができるしランランさんが言ったことを理解はできるけど、それが全体の様子でもないと思う。

ランラン:もちろん、ドラマを通して、東京の全体を見るのは無理です。全体を見たいなら、自分で体験しなきゃ。でも、東京を見るって、ドラマは確かに他の方法より、もっと役に立つ。

#### ■ 参、結論

「ドラマを通して、東京を見る」というテーマを決めた後、グループの皆さんは、私に、「一体東京の何をみたいのか？」という問題を投げかけました。最初の考えは、「ただドラマが好きな私が単純にロケ現場を探したい。」という気持ちからでした。しかし、動機の冒頭の文で、「私は日本についての知識と概念を、全てドラマの中から知りました。」と書きましたが、テーマに対して元の考えは違っていました。最初の動機は、ただ「東京でのロケ現場を見つけるだけ。」だったので、それではあまり意味がありませんでした。そこで、これを通して何を掴む事ができるかと考えを進めていき、東京は世界的な大都会で、世界各国から、いろんな人種の人が入り混じっているのです。各文化が融合され世界的な流行を創り上げていて、興味あるロケ現場に行くことを通して、人や文化などより深い東京を見

たら絶対に面白いのではと思うようになりました。それに、せっかく日本に来たので、是非「東京の色々な深い顔」を知りたいと思います。

どんなドラマでも、脚本家がどうしてもこの社会に伝えたいメッセージが含まれるので、ドラマは一昔前の主婦たちの暇な時の楽しみだけではなくて、時代をとともに若者向けになり、現代の若者にとっては、親の話より、ドラマから伝わる考えや言葉の方が受け入れやすくなっているように思われます。それに、留学生として、最初新しい文化に触れた時、カルチャーショックは新しい生活に慣れる障害となります。私の経験として、ドラマをいっぱい見たから、大体の日本に対するイメージができました。来日以降、実際の日本とドラマ中から知った日本は特別な違いがあまりないと感じて、すぐ生活に慣れました。

ドラマは私に日本を好きにさせるだけではなくて、カルチャーショックを減少させ、日本の生活に早く慣れるのに重要な役割を果たしました。東京を広く知る事ができる、一番有効な方法はドラマを見ることです。

#### ■ 四、終わりに

こんな長い文章を書いたのは、生まれて初めです。二ヶ月間の睡眠不足で、やっとレポートを完成しました。これは嵐グループの皆さんや私の大事な相手のクッキーさんのご協力の賜物で、本当に感謝いたします。皆様、お疲れ様でした。

# 流行音楽について

林 秉栄

- 1、 動機
- 2、 ディスカッション
- 3、 結論
- 4、 おわりに

## 1、動機

流行音楽は音楽世界の一部分として、世界中で人気がある。どうしてか、皆さんがわかっているはずだろうと思っている。衣類と同じように、時代の発展や人間の考え方の変化とともに、流行音楽も次第に進んでいっている。今流行っている歌はだぶん1、2か月か半年後人気がなくなるでしょう。なぜなら、新しい曲が出るのはずいぶん速いものである。それでも、私はやっぱり流行音楽に対して好きな気持ちを抱いている。自分が好きな流行音楽を聞くと、興奮するようになるし、気持ちもよくなるからである。流行音楽が私を感動させるのはメロディーだけじゃなくて、ある歌詞も深い意味がある。メロディーと歌詞の結びつきを通さなければ、流行音楽を作る人が本当に表現したいことがよくわかることができないと思っている。自分が成長するにつれて、流行音楽は私にとって、ますます大切になると同時に、流行音楽に対して好きなのがだんだん変わってきた。

子供のごろ、田舎で暮らしていて、その時が遅れたから、ほとんど流行音楽に接していなかった。そのままで中学生になってしまった。中学校と高校の6年間の中で、町に学校に通っていたので、流行音楽を聞く機会が多くなった。したがって、流行音楽にはだんだん興味が湧いてきた。しかし、そのころお金もなかったし、あまり暇もなかったし、テープ、レコーダーが買えなかった上に、流行音楽を聞くのはたまにしかなかった。そのため、流行音楽に対しての好みを自分の心の中に隠すよりしかなかった。しかし、そのとき、流行音楽に関して、好きなのは主にメロディーと歌詞じゃなくて、歌手である。

そして、大学に入った後、自分が自由に利用できる時間が多くなるようになった。その時、もう1998年になって、以前より中国人の生活の水準が目覚しく高まってきた。テレビと電話など電気製品の使用が全国に普及したから、私はテープ、レコーダーとかCD、プレーヤーを買うことができるようになった。そのおかげで、今は私はいろいろなテープ、レコードとCD、レコードを持っているが、高校の時と比べて、レコードを買うとき、考えているのがメロディーや歌詞で、人気があるきれいな歌手ではない。そうすると、やっと私がほんとうに流行音楽が好きなファンになると言えると思っている。

人生が山もあり、谷もあるように、私はもちろん楽しい時もあるし、悲しい時もあるし、寂しい時もある。そんな時、いつも流行音楽を通して、自分の気持ちを表している。そうすると、流行音楽はいつも私の聞き手のように、私といっしょに楽しみとか悲しみとか寂しさを分かち合う。また、私は流行音楽の力を借りて、好きな人に自分の気持ちを伝えたことがある。つまり、自分の気持ちが表現できるメロディーや歌詞でテープを作って、好きな人に贈ってあげたのであった。もし流行音楽は私といっしょにいなかったら、自分の生活がどうなるか、わからないが、たぶん魚が水を離れるようだろうと思っている。流行音楽はいろいろ楽しみをくれ、私の生活を豊かにして、もう私の生活の中で、なければならぬ一部分になってきた。

今、日本に留学していて、一人の暮らしになっているので、毎日部屋に戻ると、まずレコーダーをつけて、何かをしながら、流行音楽を聞く。そうすると、寂しいと感じていない。それに、勉強から疲れていると感じるたびに、いつも流行音楽に軽くなってもらう。私にとって、友達とはいっしょに遊んだり、いっしょに楽しみや苦しみや寂しさを分かち合ったり、互いに助けたり、何でも気軽に話し合えたりするというものである。だから、流行音楽とは私の友達のように、私の生活の中で必要なものである。

## 2、ディスカッション報告(1)

### ——流行音楽への考え方

参加者：リン、ソンさん  
時間：5月30日3時間目

ソンさん：林さんの文章を読んで、林さんの流行音楽に対しての好きな気持ちがよくわかったが、流行音楽とは、人気湧くにしても、人気なくなるにしても、速いものだという事実について、どのように考えてるの？

リン：そうね。実はこの事実も私が流行音楽が好きな原因の一つ。

ソンさん：えっ、何で？

リン：ええと、なぜならば、いわゆる流行音楽こそファッションもしくは時代の発展に合って、人間の現実の生活に親しいつながりがあるものだと思うんだ。着物と同じように、もし毎日同様な衣服を着たら、どんなに好きでも、きれでも、きっと飽きが来るだろう。そのとおり、いつも同じ歌を聞くはずはないだろう。

ソンさん：そうか。だが、林さんの流行音楽への熱中がほんとうに好きじゃなくて、ただファッションを追いかけたいただけだと思うんだが。または、それから林さんの性格を知ることができるが、つまり林さんは移り気で、新鮮なものばかりが好きな人だと言えるか。

リン：ハハハ。。。もちろんそうじゃなくて。実は、台湾や香港、日本、ヨーロッパなど国々は歌手がいっぱいいて、良い曲がどうも多いんだから。それでも、私がずっと好きな歌手はやっぱりいる。私の流行音楽への好きはファッションを追いかけるためじゃなくて、流行音楽が本当に楽しみをもたらしてくれるからだ。ところで、ソンさんは飛鳥涼さんの音楽が好きだが、飛鳥涼さんの音楽も流行音楽じゃないでしょうか。だから、流行音楽について、ソンさんの考え方は。。。

ソンさん：そうね。実は、あの、私は飛鳥涼さんの音楽だけを聞いて、他の流行音楽なら、ほとんど聞かないし、あまり好きじゃない。経典音楽と比べると、流行音楽は意味も深くないし、内容も簡単すぎる。そのほか、流行音楽とは音楽だけじゃなくて、同時に歌手や歌手が属する事務所、大衆媒体などに親しく結びつくものだ。それで、林さんは流行音楽を選ぶとき、歌手及びテレビ局か放送局でのいろいろな宣伝に左右されるかどうか、聞きたいんだが。

リン：なるほどね。流行音楽という存在はいろんな点によって、影響を受ける。私としてはテレビあるいはラジオを通さなかったら、どの歌がすばらしいか、わからなくなってしまうから、やっぱり大衆媒体の力を借りるしかなくて、流行音楽を選んでも、人気がある歌手や各種の宣伝に左右されないで、自分の好みによって、どんな音楽を聞くかを決めてる。

ソンさん：それなら、林さんは本当に流行音楽が好きなんだよね。

リン：うん、もちろん！

実際に、自分は流行音楽が好きなのが好きだが、流行音楽自身の意味について、ずっとよく考えていない。いったい流行音楽という存在はどういう意味があるか、人間にどんな影響を与えるか。流行音楽自身の莫大な魅力だからだか、それとも、人間自身は流行音楽を必要とするか。もしかしたら、両方の結びつきだからこそ、流行音楽は絶えずに続いていて、世界中で経典音楽よりもっと人気がある。もちろん、これは流行音楽が易しく、現実生活に近いという特徴に関係がないじゃないだろう。ところで、流行音楽と言え、POPとかROCKとかR&BとかHIP-POPとかBLUEとかCOUNTRY MUSICとかいろいろな種類がある。自分が好きなのはその中の小さな一部分だけで、つまらなく見えるんだけど、とにかく好きなことは好きで、いつまでも好きな気持ちは変わらない。

## ディスカッション報告(2)

### ——メロディー、歌手と歌詞について

参加者：リン、ソンさん

時間：6月6日3時間目

ソンさん：林さんは流行音楽が好きだからには、好きなのはメロディーか、歌手か。

リン：うーん、それは。。。中学生の時、好きなのはやっぱり歌手で、しかも主に男の歌手だった。そのころ、アイドル派の歌手つまりきれいな歌手は特に人気があったから、私は

回りの友達に影響を与えられて、アイドルを追いかける欲望がたちまち膨らんだ。それで、流行音楽への好きはただアイドル歌手への好きだけだったと言える。

ソンさん：え、何でその時好きなのは歌手で、そのうえ主に男の歌手だったの。流行音楽が好きだと言えば、好きなのはきっとメロディーだろうと思うけど。

リン：えー、たぶんまだ中学生で、思い方が単純だったから、かっこいいスターを見ると、もし自分もそのスターのようにかっこいくなったら、どんなにいいなあという考え方が出ちゃった。中学生とは、夢がいっぱいあって、実現できない夢を追うのが好きな学生時代かもしれないと思ってる。

ソンさん：そう。中学生はやっぱり中学生で、まだ大人にならないからね。ところが、中学生の林さんは流行音楽が好きだと言えないだろう。

リン：ええ。いかにも言えないが、流行音楽が好きなきっかけだと言ってもいいだろう。

ソンさん：それじゃ、いつから林さんはようやく流行音楽が好きになったの。

リン：ええと、高校に入ってから、自分の成長につれて、思い方がだんだん成熟になってきたから、いつの間にか好きなものも変わってきた。中学生の時の通りに、一心にアイドルを追いかけるじゃなくて、流行音楽のメロディーに気づき始めたんだ。その時こそ、本当に流行音楽が好きになった。私にとって、高校の三年間はけっこう大切だったんだ。なぜならば、その時最初に好きな流行音楽は今でも好きでいる。流行音楽は流行という特徴があるけれども、私は1996年から今までずっと関心を寄せて、好きな気持ちを抱いてる歌手がいる。但し二人だけだ。

ソンさん：すごいね！私は流行音楽が好きじゃないが、林さんと同じように今までも好きな歌手もいる。

リン：飛鳥涼さんだろう。

ソンさん：そう。でも、何か飛鳥涼さんだけの音楽が好きで、ほかの流行音楽に全然興味がない。実は、歌手と言えば、普通は二つの派の実力派とアイドル派に分けられるでしょう。時々、歌手は音楽より人々にもっと大きな影響を受けさせる。そうだったら、流行音楽のもとの意味がなくなっちゃうと思ってる。例えば、日本中で人気がある歌手の浜崎歩さんは新しいアルバムが出るたびに、もたらすのが音楽自身の驚き喜びじゃなくて、主にファッションの息吹なんだ。そして、若者が次々に浜崎歩さんを真似て、同じアクセサリをつけたり、同じ色のような髪を染めたりしてる。だから、やっぱり流行音楽は単純で、本当に自身の意味がある音楽だと言えないと思ってる。

リン：そうなんだけど、人によって、流行音楽への考え方が違うだろう。せめて私は好きなのはメロディーで、歌手に関係がない。たとえ歌手が好きでも、その歌手の音楽が好きだからだ。実はメロディーばかりか、歌詞も好きだ。

ソンさん：歌詞？歌詞と言えば、やっぱり愛情について書いてある歌詞が多いだろう。

リン：そうね。もしかすると流行音楽の聞き手が主に若者で、若者の間では、愛情という話題はいつまでも人気があるから、若者は寂しい時、恋愛をしたい時、恋に落ちてる時、あるいは失恋に悩んでる時、常に流行音楽の歌詞を通して、自分の気持ちを表す。そして、精神的な満足をもたらすことになる。

ソンさん：じゃ、林さんが好きな歌詞は恋愛に基づいての歌詞？

リン：ええと、ちょっと難しいね。主に恋愛についての歌詞が好きなんだけど、それだけじゃなくて、ほかに深い意味がある歌詞も好きだ。例えば、呂方の「友達、泣かないで」や伍思凱の「分かち合う」など、友情についてのすばらしい歌詞だね。聞いたことがある？

ソンさん：残念だけど、聞いたことがない。だが、林さんが好きな歌詞は中国語ばかりの歌詞だろう。

リン：うん。しょうがないなあ。中国語だけよくできてるから。日本語の曲もしくは英語の曲なら、メロディーしか聞かない。なぜなら、歌詞が少しだけわかる。だから、メロディー、歌手や歌詞の中では、私は好きなのは取り敢えずメロディーで、次に歌手で、最後歌詞だ。

ソンさん：なるほどね！

流行音楽の聞き手にとって、メロディー、歌手や歌詞の中では一番難しいのがたぶん歌詞だろうと思っている。日本に来てから、よく聞く流行音楽が日本の歌手の音楽だが、日本語が上手じゃないから、なかなか歌詞の意味がわからない。しかし、わからなくても、相変わらずよく聞く。その時、いつも音楽を聞きながら、メロディーを通して、なるべく歌が表れる内容や意味を想像する。こういう感じが本当にすばらしいと思っている。

### ディスカッション報告(3)

#### ——流行音楽と友達のつながり

参加者：リン、ソンさん

時間：6月13日3時間目

リン：ソンさんにとって、友達って、どういう意味の存在？普通は友達と言えば、人間を指すだろう。ソンさんは人間の他に友達と言えるものがあるかな。

ソンさん：うーん、人間は人間しかとお互いに交流したり、理解したり、助けたり、楽しみや苦しみを分かち合ったりできない。友達なら、やっぱり人間だけを言えて、人間以外のものが人間と同列に論じられない。音楽、スポーツ、テレビや本など、ただ娯楽で、気分転換の役に立つだけだから、私にとって、人間の他に、友達と言えるものがないんだと



思ってるが。

リン：あ、そうか。私の考えでは、友達って、幅広い意味を含んでるもので、自分にとって、必要で、大切に、いつも自分といっしょにいるものである限り、みんな友達と言える。例えば、流行音楽は私にとって、友達のような。

ソンさん：林さんの流行音楽への好きな気持ちがよくわかってるけど、やっぱり林さんは若者で、寂しいまたは恋をしたい時がよくあるから、流行音楽を好きになると思ってるが。林さんにとって、流行音楽って、自分の内心の感情を発散する道具なので、好きな気持ちが一時的だと考えるんだが。もし結婚になってたら、奥さんがいるから、きっと流行音楽にあまり興味がなくなるだろう。でも、友達って、一生を通じてのものなんだ。

リン：えー、将来はどうなるか、私もわかんないが、結婚してるにしても、おじいさんになってるにしても、流行音楽への好きな気持ちが変わることはないと思ってる。人間は一旦ある性格が形成されれば、変わりそうもないだろう。しかも、私は楽しい時、寂しい時や気持ちがよくない時だけ、流行音楽を聞くじゃなくて、もし1週間か2週間流行音楽を聞いてなかったら、何か足りないと感じることになる。

ソンさん：ああ、それは共通点だね！

リン：そう、流行音楽は人間の友達のように、いっしょに遊ぶなり、お互いに助けるなり、話し合うなりできないんだけど、楽しみをくれることができ、ずーと、ずーと私といっしょにられる。それで、流行音楽は私の友達のように、生活の中で欠けちゃならないものなんだ。

友達って、人間にとって、大切に、必要で、一生を通じてのものなんだ。私は多くの友達が自分の回りにいる時、いろいろなこともできるし、生活も面白く、豊かになるし、友達の重要性に意識をつけていなくて、友達を大切にすることも心得ていない。一人で日本に来てから、寂しい生活が始まる時、どんどん友達といっしょに楽しく過ごした日が思い浮かんでいるが、ようやく友達が自分の心の中でどんなに肝心だということがわかってくる。同時に、流行音楽は自分にとって、どういう意味の存在かと考えるようになる。結局、流行音楽は自分の友達のようなという考えができていく。

### 3、結論

ディスカッションを通して、私は流行音楽に関して、もっと深く理解することになる。流行音楽とはやはり流行という特徴があって、いろいろな方面に影響を受けて、本当に自身の意味がない音楽と言ってもいいと思ってる。それでも、私は相変わらず流行音楽が好きであるが、好きなのは取り敢えずメロデー、次に歌手、最後歌詞である。なぜなら、メロデーこそ流行音楽の最も直接的で、具体的な表現でもあり、世界共通のものでもある。楽しい時、流行音楽は私といっしょに楽しみを分かち合うし、寂しい時や気持ちがよくない時、私の気持ちをよくするし、迷っている時、進む力をもたらせてくれる。もし1

週間あるいは2週間流行音楽を聞いていなかったら、糸が切れた凧のように去就に迷ってしまうという感じである。友達というのは、一生を通じてのものなんである。将来のことは誰も予想できないけど、流行音楽は自分の一生を通じてのものだと信じている。人間の友達と比べると、ちょっとつまらないが、流行音楽は私にとって、ますます大切になって、もう生活の中でなければならぬ一部分になっている。いつまでもずっと、ずっと私といっしょにしている。

#### 4、おわりに

いつの間にか2か月半経った。私にとって、このレポートを書くのは難しいから、やっと終わる時、大変うれしいと感じている。この2か月は嵐グループの皆さんといっしょに楽しく過ごした。嵐グループの全員はリーダーのはっしー、ヤモテイー、ランラン、バナナ、ジョージ、ジスウーさん、ヘリンちゃん、リさん、ハンさん、ボムと私である。嵐グループの皆さんと出藍グループのソンさんのおかげで、私のレポートはうまく完成している。どうもありがとうございました！

最後、ついでに私が一番好きな歌手の写真を添付しているが、以下通りである。



# 「ダイエットの本当の意味とは」

ジョン　へ　リン

1. 動機
2. ディスカッション
3. 結論
4. おわりに

## <動機>

最近テレビや雑誌や新聞など大衆媒体に通してダイエットという言葉をよく接しています。ダイエットをするための運動器具、薬、食品など様々な種類が広告を通して消費者を誘っています。

して見ると、なぜ大勢の人がこんなにダイエットをしようとする理由はなんでしょう。私もダイエットしたいと気持ちは強く持っていますが具体的に計画を立てそれを実行したことはありませんでした。そしたら私はなぜダイエットがしたいと気持ちを持っているのか、ダイエットの窮極的な目的は何だろう、私にとってダイエットの本当の意味は何かについて考えてみました。

時代が変わってくるに従って、人の好みや美の基準も段々変わっています。テレビを見たら背が高く、体がすごく痩せてスタイルがいい芸能人がたくさんいます。そしてテレビを見ている女性たちはその芸能人のようになるのを望んでいます。これもダイエットする要因の中で一つだと思います。

もちろん、女の人の見た目だけが全部じゃなくて心も一緒に重要だと、私は思っていました。今の社会をみたら見た目も結構重要されています。それを感じたのは私が大学性の時でした。観光学が専門だったので卒業したら大多数の学

生たちが観光ガイドと旅行社、ホテルなどに就職することになっていました。そして卒業する前に1~2ヶ月間、実習して単位を取らなければなりませんでした。みんなそれぞれの望んでいる会社に面接しました。その時、私は今まで思っていた社会と現実の社会は大きな差異があったのを分かりました。面接官は実力より見た目を優先して学生たちを選びました。実力がすごくよくても見た目だけで判断してしまうなんて、初めて感じました。まず目に入るのが見た目だから実力の優秀な学生は段々自信がなくなってすごく悩んでいました。それを見て、やっぱり見た目がいいのが一番かなと思いました。テレビで見たことがありましたが、何回も面接に落ちてすごく悩んでいて、結局には整形手術まで受けた人もいました。

こんな競争社会で生きていくなら何より自分自信感を持つのが一番大切なことだと思っています。

私も日本にきてから少しずつ太ってしまったので段々自信感がなくなりました。そして可愛い服もすごく気に入った服も着られませんでした。人の目の前に立っているのも恥ずかしかったことがありました。

それで私にとっても自信感を持つため、ダイエットというのはとても重要であります。ダイエットとはただきれいになるためではなく自分自信感を持つようになることともに、自分にもできることがあるという成就感も感じられると思います。

## ディスカッションの報告（1）

参加者： フローさん、私(ヘリン)

時間： 2003年 5月 23日

場所： 教室

フローさんとディスカッションする間、私が思ったダイエットの本当の意味は何だろう、ダイエットするに従って本当の自信感を持つようになるかということについて考えてみました。

私： まず、フローさんは私の文章を読んでどう思いましたか。

フローさん：　そうですね。僕もあなたの考えに同感しますよ。あなたの文章を読みながら2年前の僕が思い出しました。2年前、僕も自分が少し太ったと思って理想的な格好になりたくてダイエットしたことがあります。人間なら誰でも見た目について関心があるし、もっときれいになりたい欲望には切りがないと思います。

私　　：　　そしたらダイエットをして自信感を持つようになれるということについてはどう思いますか。

フローさん：　うん……もちろん、ダイエットをして自分が望んでいる理想的なスタイルになったら自信感を持つようになるのは当然だと思いますよ。今の社会もあなたが言ったとおりに確かに見た目がとても重要視されていて色々な問題点もありますね。たくさんの方が見た目に関心を持っている理由は社会の影響も大きいと思います。ある時は人の中身より見た目で全部判断してしまう場合もあると思います。

私　　：　　フローさんの意見はどうですか。やはり人の見た目が重要だと思いますか。

フローさん：　いいえ、僕は見た目より心が一番重要だと思います。むしろ、何年前には人の中身より見た目にもっと関心を持った時もありましたが、今の僕にとっては何より中身が大切なことでもあります。顔がいくらきれいで、スタイルがとてもよくても性格が悪いし心が優しくなかったら僕はあまり好きじゃないです。

私　　：　　それは当たり前じゃないですか。でも、最初人に会ったら中身より見た目が一番目に入れるんじゃないですか。そこについてはどう思いますか。

フローさん：　それはですけど2回、3回に会ってみたら見た目よりその人の性格とか考え方、価値観などにもっと関心があるようになりますよ。ちょっと恥ずかしいけど僕の経験によると今まで付き合った女の人の中で、顔がきれいだった人はあまり性格がよくなかったんです。そのままでも十分きれいなのにもっときれいになりたくて化粧することに時間をたくさん浪費するし、おしゃべりすることしか考えていないように見えました。顔がきれいだとして自信満々で自分だけはどんな意地悪しても何もかも許されられると思っている人も多いです。

例えば、会社の面接する時、人の能力や知識などの中身は無視したままだ格好が良いとしてそれだけで判断して社員を選んだら間違いな選択になると思いますよ。仕事には興味がなくていつも自分の見た目しか関心がないならどうしますか。ちょっと極端的な例だったかも知れません。また、携帯電話や車も同じだと思います。単純に形が素晴らしいと思って買ったら、中の部品が不良になっていました。電話する時、相手の声がよく聞こえないし、車は故障を頻繁に起こしていたら本当に困るんでしょう。これもものを見た目だけで判断した結果だと思います。結局、時間が経過すると人の見た目より中身のことがもっと重要になるんじゃないかと僕はそう思っています。

私はフローさんとディスカッションした後に一人でじっくり考えてみました。見た目と中身と二つの中でどちらがもっと重要であるのか。また、きれいになるためにダイエットしてそこから自信を感じられるのか。私にとって自信感とは何だろう。自信はどこからくるのか。あるいは今までの私はただ見た目がきれいになることで自信感もついでにくるんじゃないかと思っていたかも知れません。でも、見た目と中身という問題ではなく一体自信感とは何かについて段々気がついてきました。

## ディスカッションの報告（2）

参加者： ベッチさん、私（ヘリン）

時間： 2003年 6月 13日

場所： 教室

ベッチさんも「自信について」のテーマだったので各自が考えている自信というのは何かについて話してみました。

ベッチさん： ヘリンが今考えている自信というのは何ですか。

私 : え……何だろう、これが自信だとはっきりは言えませんがよく考えてみると自分自身が元々持っている内的な自信と、周りの人から影響を受けられる外的な自信、二つがあると思います。ちょっと難しく感じるかも知れませんが、じゃあ、そしたら易しく説明すると、私が思っている内的な自信はある分野で特別に優秀するとかその分野に関しては詳しく知っているので誰にも負けないという強い気持が自信感につながっていると思います。例えば、私は日本語を一生懸命勉強して日本人のように話せると自分がそう思っていたらその人にとってはそれも自信感になるんじゃないかと思えますよ。人によってどんなことが自信感になるのか良く分かりませんが例のことも自信感の一部分だと思います。もう一つは自信感は自己満足感も関係があります。自分が望んでいる目標に到達した時の満足感について自信感くるんです。ベッチさんにとって自信とは何ですか。

ベッチさん : 私は幼い頃からずっと自信がなかったんです。そして私の側にはいつも親がいてくれたので一人ではできないと思いました。小学校に入って勉強する時とか宿題する時、難しい問題があったら親がいつも助けてくれました。遊んでいる時も何か困っていたら何もかも助けてくれました。そして私にとって親の存在感はものすごく大きいものでありました。でも、段々成長して大学校に入って一人暮らしをする事になりました。勉強ももっと難しくなって親の助けもこれ以上できななかったんです。誰も助けてくれる人はいない、どうしても私一人でやらなければいけません。一度も一人でやったことがなかった私は「どうしよう、どうしよう……」すごく心配しました。でも、何とかしなければならぬ状況だったので自分の力で少しずつやってみたら一つ、一つ解決できることを分かりました。その時、一人でもできることを感じてすごく嬉しかったんです。一人で何とかしてそれを解決した後は自信もだんだんできるようになりました。今考えてみると、私にとって自信は一人でできることであります。

私 : そうですね。誰の助けがなくても自分自身が何とかして遂げたとき、自信を感じれるんですね。私が思った自信とは少し違うんですけどベッチさんの気持も分かるような気がしますよ。

ベッチさん : ヘリンちゃん、先、内的な自信と外的な要因を受けて自信を持つと言ったけど外的な自信というのは具体的に何ですか。

私 : 例えば、嵐というグループがあってその中で私が何かについて意見を発表

するとしたら、全然知らない人ばかりがいると思ったらとても緊張して自分が思ったとおりに話できないかも知れません。でも、その中で一人でも私もことを信頼してくれる味方がいたら多分自信を持って話せると思います。私のことをありのまま認定してくれる人がいるならどこでも、いつでも自信を持つことができますよ。これが周りの人から影響を受けられる自信だと思っています。

ベッチさん： やっぱりそうですね。ヘリンが言ったとおりに自分の味方から受けられる自信もすごく大切だと思いますよ。私はそこまでは気がつかなかったんです。今日、色々な話し合っってすごく楽しくてよかったと思います。

私： 私も楽しかったんです。ベッチさんのことたくさん話してくれてありがとうございます。ベッチさんとしたディスカッションは自信感についてもっと深く考えてみる時間だったのですごくよかったと思いました。

## <結論>

自信感を持つためにダイエットするというのはとても重要であるという動機で始めましたがディスカッションをとおしていろんな人と話し合いながら今まで一度も気がつきませんでした。私にとって自信感は何だろうということに疑問ができてその疑問について少しずつ考えてきました。

フローさんとしたディスカッションでは見た目はあまり重要ではない、ダイエットして見た目がよくなることも良いけどそのより中身をもっと大切にしなければならないということに強調しました。見た目がきれいになることで自信感もついでにくると思っていた私はそこで一体、自信感ということは何だろうに気がつきました。私にとって自信感はどうなる存在であるのか、あるいは自信感はどこからくるのかについてもっと深く考えるきっかけになりました。

ベッチさんとしたディスカッションは人によって感じる自信は少しずつ違うのを分かりました。ベッチさんは一人で、一つ一つできるようになるのが自信感とつながっていました。

いろんな過程を立ち寄ってここまで来た今、私にとって大切なのは自信を持つために努力することとありのまま自分をもっと大事にすることだと思います。



## 終わりに

このレポートを完成するまで本当に大変でしたけどやっと終わりました、嬉しい気持ちもあるしもっと頑張ったらよかったのにといい気持ちもありました。

半年ぐらいに嵐のグループと一緒に過ごしてとても楽しかったです。みんなそれぞれの主題を決めてお互いにアドバイスしたり意見を交換しながら一つのレポートに完成できるようになる間、いろいろな思い出も作りました。リーダーとしていつもみんなのこと心配してくれたりもっといいレポートになるように助言してくれた（はっし、ヤモティー）に心から感謝しています。今までありがとうございました。

# 田中芳樹との出会い

潘 楽

## 目次

1、動機	1
2、ディスカッション報告	2
3、結論	6
4、終わり	6

### 動機：

私は幼い頃から読書が大好きだった。5，6歳の時、童話の本を持っていておばあさんの家で夏休みを過ごした。そのときまた字を多く読めないなので、両親が教えてくれた辞書の使い方で辞書を引しながら本を読んでいた。

中学生の時は勉強にあまり興味がなかったけれども、課外の本をたくさん読んでしまった。いろいろな本を読んだが、特に SF に興味が深かったのだ。SF（エスエフ）は science fiction（サイエンスフィクション）の略語で、科学的空想によって常識を超えた世界を描いた小説である。これは大人の童話でも思えられるだろう。

初めて読んだ日本の SF は星新一の作品だった。図書館で借りてきた本なのでちょっと古かったが、短くて面白かったのだ。「なるほど、日本の SF もいろいろ面白いものがあるよね。」とその時から思っていた。

高校時代は進学のために一所懸命勉強してとても疲れたから、たまには煩わしいことのないところに逃げたかったのだ。私は幻想的な物語が好きで、特にそんなところに行きたかったのだ。それは田中芳樹さんの小説が提供してくれた。その時、田中さんの架空歴史小説《銀河英雄伝説》が翻訳されて出版した。とてもステキな作品だったので、十冊もあるこの小説を一週間に読み終わってしまったのだ。波瀾万丈の物語にユーモアな言葉遣い、読むだけでも楽しいことだった。いつも勉強で疲れたときに田中さんの本を読んで、主人公達と一緒に幻想の世界で冒険したり、旅したりして、もう一度立ち上がるのだ。それからはもう田中様の大ファンになってしまったのだ。

田中さんの全作品は翻訳されていないけれど、翻訳された本はもう全部読んだのだ。この中から田中さんの価値観が表れてきて、私は今までの物の考え方がまとめられるように感じている。たとえば、田中さんの本には大体複数の主人公を持っている。この人たちは

皆親しい関係を持っている場合もあるが、対立する場合もある。それぞれのキャラクターは自分の立場でしなければならないことがあるので、時々そのしなければならないことは自分の本心と矛盾することもあるけれど、やはりやるしかないだろう。そういうときの本心と責任感の闘いを真実のように描けるのは田中さんの作品の一番魅力的なところだと思う。

多分私も田中さんのような創造力の豊富な人になりたかったかもしれない。だから、田中芳樹さんは私にとって人生の行く末を見せてくれる人である。いつかぜひ田中さんの本を残らずに全部読もうと思っている。あの時の楽しさが本当にいい思い出だったので、もう一度体験したいと思っている。

## ディスカッション報告 1

参加者：パッタリンさん、バナナ、私（潘）

場所：早稲田大学14号館510室

時間：2003年5月26日3時間目

**バナナ**：もし田中さんの作品はSFじゃなかったら、また好きになってしまったかな？

**私**：それはちょっと考えられないですね。でも、田中さんの書き方とか、文章の・・・（バナナ：流れとか？）そうそう、こういうところも好き。（パッタリンさん：内容？）ん。なんかキャラクターもとても個性的な人だから、それぞれですね。

**パッタリンさん**：多分考え方が・・・

**私**：そうですね。実は、田中さんの作品はSFというより、歴史のほうに近いですね。大体国と国の戦争とか、国の発展史とかの内容が多い。それは、幻想的な世界で実の世界のことを書くんですね。たとえば、この『銀河英雄伝説』は「銀河の三国志」と呼ばれてます。

**パッタリンさん**：そうですか。

**バナナ**：三国志は中国の三国時代の歴史より書いた本ですが。

**パッタリンさん**：じゃ、田中さんの書いたキャラクターは本当の人物から書いたのですか？

**バナナ**：そうね、歴史上に本当のモデルがいましたかも知れない。

**私**：ちょっと似ている感じですね。田中さんも中国の歴史に詳しいですから、本当の人物をモデルにして書いたのかもしれない。

**パッタリンさん**：だから、この本を読んで歴史もわかるようになるんですか。

**私**：そうですね。歴史はいつも繰り返してるんじゃないですか。

**バナナ**：ん、いつも同じようなことが起こってるんですね。ちょっと形は違うんですけど、大体同じことをやってるんですね。

**私**：まじめに本当の歴史の本を読むのはつまらないですから、これはいろんなキャラクター

が出てくるから、面白いですね。

**パッタリンさん**: そうですね。本当の歴史を参考して、でも、新しいストーリーを作って・・・  
田中さんの本は大体歴史のストーリーですか？

**私**: そうですね。ま、田中さんのもうひとつの特徴というか、それは自分の意見をはっきり言うということですね。たとえば、田中さんの政治家に対する態度です。田中さんは政治家に対して、あまりよい印象を持っていないことがよく書かれていますね。

**バナナ**: 政治家はいつも自分のいいところをみんなに見せるんじゃないですか。普通の人にあまり悪いイメージを持たせないですね。何をしてもみんなのためとか言ってるんじゃないですか。でも本当かどうかは知らないけどね。

**パッタリンさん**: じゃ、彼の本を読んでこういうことをわかってきたのね。

**私**: そう。なんていうか。この人もとても大胆ですね。ほかの人があまり書かないものをはっきり書いてある。

**パッタリンさん**: だから、この人の性格も好きだし、考え方も好きだし・・・

**私**: そうですね。

**バナナ**: この人の考え方は自分と似ていると思っけていますか？あるいは、性格は似ていると思っけていますか？

**私**: 実は、この人の本を読んだときは高校時代で、そのときはとても内気でシャイでしたよ。

(**バナナ**: ええ、私と同じだよ！) (笑) 今は全然そう見えないけど。多分そのとき本を読んでこの人に憧れたのかもしれない。

**パッタリンさん**: 多分自分も言いたいことがあっても言えないかな。私も時々そう感じている。

**私**: そうですね。自分の考えてることが言葉にならないですね。でもこの人は本当にはっきり言っけてます。時々考えていることも同じだという感じがあるんですね。たとえば、ストーリーの中で、「あー、私もこうしたい」とか、「私もこう思っけてる」とかあるじゃないですか？

**パッタリンさん、バナナ**: そうそう。ありますね。

**私**: 多分私は現実を好きじゃないかもしれない。勉強とか生活は難しいと思っけて、異世界に行きたいかもしれない。

**バナナ**: そうですね。異世界に行ったら、勉強もしないし、仕事もしないね。努力したくないけど、成功したいですね。

**私**: そうそう、怠け者ですからね。

今度ディスカッションの前半はパッタリンさんに田中芳樹さんのことを説明してあげました。パッタリンさんはこの作家のことはなにも知らなかったから、ちょっと時間をかかりました。私の田中さん（あるいは田中さんの作品）についての感想も話しました。下手な日本語で説明したから、言いたいことははっきり言葉になれなかったのですが、最後の所

にパッタリンさんはやっとなるようになってしまいました。

今週のディスカッションはあまり進めなかったと思いますが、来週は人生観とかについてもっと詳しく聞きたいと思います。お楽しみに。

## ディスカッション報告 2

参加者：バナナ、私（潘）

時間：2003年6月6日

場所：14号館508室

今週パッタリンさんは休みですから、私とバナナ二人きりの状態になりました。残念です。

**バナナ**：文章の中で、「創造力の豊富な人になりたい」と書いてあるんですね。なんでそういう人になりたいですか？

**私**：そうですね。私自身はあまり創造力が豊富ではないから、実はあまりないとも言えるんですね。田中さんのような創造力の豊富な人はとてもうらやましくて、こういうような人になりたいと思います。

**バナナ**：じゃ、創造力は大切だと思いますか？どうしてですか？

**私**：やはり今までの人生はちょっとつまらない感じがしますから。学校で勉強して、進学する。あとは就職、結婚。ごく普通な生活ですね。でも、もし創造力があれば、もっと楽しい生活ができるじゃないかなと思ってます。

**バナナ**：それはどんなことについて？

**私**：私はあまり創造力はないですね。だから、ほかの人と同じことをするのはできるけど、自分で考えて作ることはとても苦手ですよ。

**バナナ**：そうそう。私もこういう経験がありますよ。

**私**：本当？バナナは私より創造力があると思うよ。

**バナナ**：いいえ、私はちょっと絵を描けるだけです。でも自分で新しいストーリーを作るのはできないよ。でも、私の友達は自分でキャラクターを考えて、ストーリーを作って、漫画を書いているのよ。すごいでしょう？

**私**：ええ、本当？すごいですね。

**バナナ**：やはりうらやましいですね。こういう人になりたいなと思いますよね。じゃ、田中さんの作品の中で、出てくるキャラクターはいろいろありますね。自分と似ているのはありますか。たとえば考え方とか、性格とか？

**私**：似ているより、実はなりたいたいですね。たとえば《銀河英雄伝説》の主人公のヤン。多分性格もちょっと似ているところがあるけど、やはり彼のような人生が好きです。私も

平穏な生活を送りたいですね。

**バナナ:** 私は違うね。私はもっと輝いた生活が好きですよ。えらい人になりたい。あのラインハルトみたいな素敵な人ですね。きれいだし、頭もいいし、一国の皇帝でもあるし。すごく憧れの人ですね。

**私:** そうですね。実はヤンも思ったとおりに生活できなかつたじゃないですか。あ、そうだ！わかった！実は私もヤンのように本当に才能があっても普通の生活をしたくてもやはり才能はあるから、だんだん大物になるんですね。あ、もちろんヤンのように早く死にたくないけど。(笑)

**バナナ:** ほかの人に認められるんですね。じゃ、やはり才能は必要ですね。ま、努力も要るけど。でも、自分の能力はどのくらいあるかわかってるから、努力しても才能のある人のレベルになれないね。やはり才能はあるかどうかは違うんですね。

**私:** そうですね。才能は生まれつきのものですから、私たちのような才能があまりない人は努力しても天才とははるかに離れてますね。たとえば、私は文章を書くとき、そのまま書くのはできるけど、もっと面白く書くのはできないですね。なんか自分の創造力はないから、ものを述べるのは苦手ですね。

**バナナ:** 私もそうよ。私の絵はいつも漫画の原型とかがあって、ちょっと変えて、それだけです。自分で作ったのはあまりないですよ。だから、友達は漫画家になれるのはとてもうらやましいです。彼女の才能を私に分けてくれたらいいのに。(笑)

私たち二人は全部怠け者みたいで、努力したくなくてもえらい人になりたいですね。(笑) これまで「創造力」はあまり出てこなくなって、「才能」のほうはよく出てきました。でも、創造力も才能の一種ですから、あまり変わらないと思います。ちょっと休憩をして、ほかの話題を話しました。やはり二人とも関心を持っている漫画の話でした。と、そのとき、将来の話は出てきました。それは、前もちょっと出てきたどんな人生を生きたいの話でした。じゃ、ディスカッションに戻りましょう。

**私:** 人生の行く末といえば、将来は何をやりたいとか、どんな人になりたいとかですよ。

バナナは何になりたいの？

**バナナ:** もし、才能があれば、私多分漫画家になりますよ。でも、今はちょっと絵はうまいだけでは無理ですね。私はこう見えても、実は人と接するのは苦手なんで、あまり人と関わらない仕事をしたいですね。たとえば大学で研究するとか、つまり、今しているアルバイトのようにプロジェクトを受けてするのがいいですね。

**私:** 私も大学の仕事はいいなと思うよ。実は私は助手のような仕事が好きです。一番上の人にはなりたくない。誰かがこれやってあれやってとか言ってくれて、つまり何をするかを教えてくれるのようなことをしたいです。自分で何をすることを考えるのはできません。

**バナナ:** そうですね。あの CM を作る人のようないつも頭の中でいっぱい idea がある人は本当にすごいと思いますよ。

**私:** 多分これは責任をとりたくないかもしれません。少しはいいけど、あまり大きくなったら、怖くなるんですね。

このクラスに入って、私とこんなに似ている人はいるとは思わなかったです。とても面白いと思います。つまり、私たち二人ともマイペースな人です。しかし、バナナは自分の好きなように仕事をしたくて、えらい人にもなりたみたいです。でも私は平穏な生活のほうは好みですから、あまり輝かなくてもいいと思います。どんなに似ているといってもやはり完全に同じな二人はいないだろう。

### 結論 :

田中芳樹の作品は多いと言えるけれど、実際に完結したものは少ない。常にとても素敵なストーリーを始めて、一冊か二冊で止まるのだ。続きはいつだって作家自分でも分らない。わがままというか、思想は跳躍的だというか、判断できない。マイペースな人だなとしか言えない。私もある程度ではマイペースですが、田中さんのようにはできないと思う。彼は才能があるから、自分の好きなようにできるだろう。

田中さんの作品は空想のものが多くから好きだといっても、実際に生活しているところはやはり現実である。空想のものを好きなのはただ現実に対して不満があるだろう。しかし、いつも不満だ不満だだけでは何も変えられない。人生はそんなに楽ではない。だから、何か目標でも作って生きましょう。悩みがあるとき、無理しないで、時間に任せて、きっと自然に解決できるだろう。中国のことわざによると、「車は山の前まで至って、きっと道がある」、どんな高い山でも登る道があるに違いない。

田中芳樹さんは私にとって、憧れの人である。私は彼と同じように生きていきたいと思っている。

### 終わり :

結論は動機の時とちょっとずれてたけれど、実は同じことを違う言い方で言うのだと思う。

人は常にいろいろを考える。自分はどんな人だの、何でこんなことをするだの、いつも頭の中で繰り返すだろう。多分はっきり結論を出したい、自分に対してもっと知りたいと思っているかも知れない。しかし、私はそうではない。考えるだけでいいと思っている。きちんと結論を出さなくても生きていける。もし自分を徹底的に分析して、何もかも知っていたら、後の生活はつまらなくなるじゃないか？人生には未知がいっぱいある、いつも

いいこととよくないことを繰り返して生きていく。それこそ人生の楽しみだと思っている。  
だから、このクラスで皆と友達になったのは一番のいいことだと思うのだ。